

(2) 第 4 回新市将来構想策定小委員会について

- 1 まちづくりワークショップの結果について
・・・ P 1～
- 2 地域アンケート調査結果について
・・・ P 5～
- 3 有識者ヒアリング調査結果について
・・・ P 27～
- 4 デジタルマップについて
・・・ P 38
- 5 自治体ワークショップの開催について
・・・ P 39

1 まちづくりワークショップの 結果について

2003.6.9

長岡地域任意合併協議会事務局

1. ワークショップのテーマ

自分の地域を再確認する
他の7つの地域を知る
新市全体で“何ができるのか”“何をしたいのか”を考える
自分(住民)たちが考える、これだと思える新市の将来像を明確にする

2. 参加者

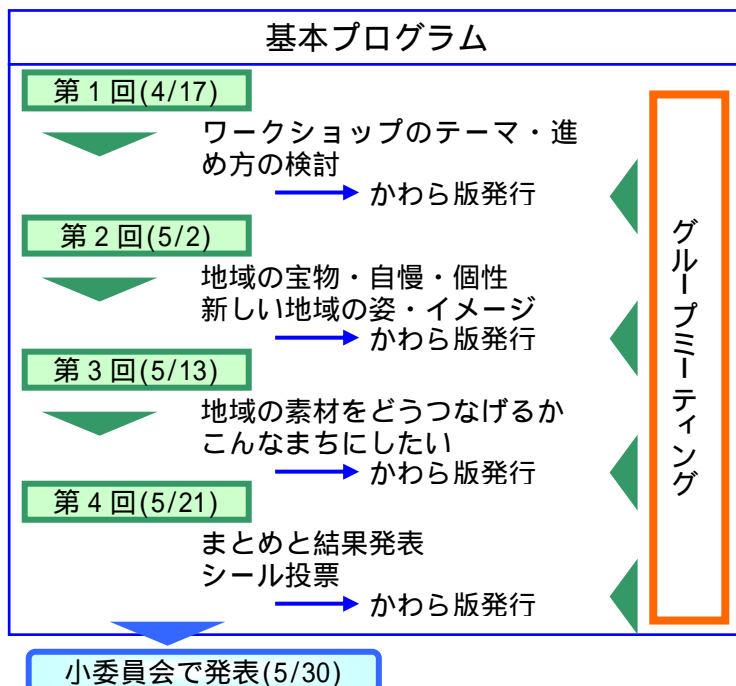
各地域(8市町村)で地域づくり等の活動をしている方、新市の将来像に関心のある方 / 50名

3. ワークショップの進め方

まちづくりワークショップでは、まず参加者の地域が偏らないように7つのグループに分け、グループ単位で、<話し合いの進め方><自分たちのグループのアウトプット>を考え、独自に進める方法をとりました。

グループによっては6回の討議を重ね意見をまとめています。

また、毎回、最後に“気づいたこと”“うれしく思ったこと”“不満に思ったこと”“言い残したこと”を振り返りシートに書いてもらい、次回に対応することで、多くの方の継続参加を目指しました。



4. まちづくりワークショップで出された主な意見

まちづくりワークショップでは、前述の基本プログラムを軸として、各グループで討議を進め、各地域が有する新市の資源やその活かし方などについての検討を行うとともに、新市の将来像を提案しました。

以下に主な意見を紹介します。

なお、まちづくりワークショップの結果は、5月30日の小委員会で、各グループの代表者が発表しました。

新市で取り組んでいくべきこと……

高齢化社会を支える「地区の自立」
住民の意識改革(各地域 新市へ)
行政制度(住民自治)の改革
地域の役割分担の明確化
新市の住み心地の良さを世界にアピールする
地産地消の実践
顔が見えるコミュニケーション
高齢者資源・力の活用
行政の枠を超えたパッチワーク的なまちづくり
今ある小さなコミュニティをいかした地域づくり
新潟県の中心としての役割(都市機能の整備・県庁の誘致など)
住民の考えを行政施策に反映させるしくみづくり(例：目的税の導入)
各地域の強みの共有(例：ブランド米) など

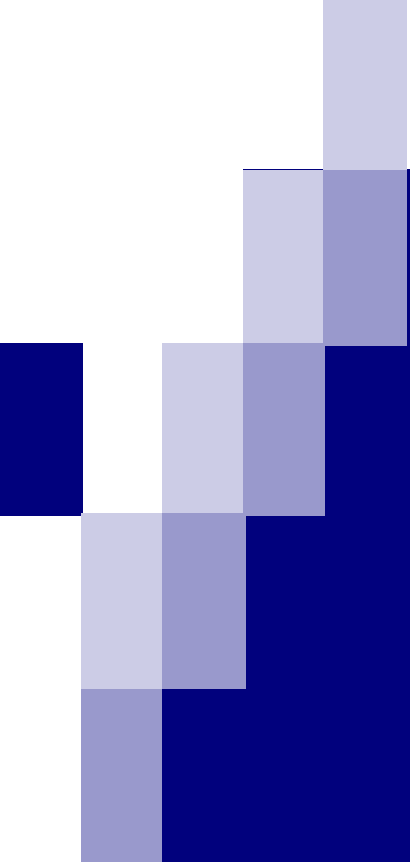
新市のイメージ……

都市を利用して周辺の農山村を生かすまち
- やま…里山の教育等への活用、自然のままに残し、300年後の世界遺産
- むら…質の高い農産品を供給し、地産地消の促進
- 都市…都市機能の充実による商業雇用の充実
命を育み、命のつながりと一緒に育つまち
世界に向けて子供たちに誇れる地域自慢のできるまち
“文化・伝統”と“最先端”のバランスがとれたまち
自然・たんぼなどをイメージの核として、医療・教育が充実したまち
人が育ち、住んでいる人、出ていった人が“わ”をつくっていけるまち
- ゆったりできるまち、受け入れてくれるところ(場)があるまち
……自然・田園・街並・産業 etc.
- やりたいことができる、したくない人はしなくてもよいまち
……やわらかな住民参加・行政のしくみ
ストレスのたまらないまち
帰ってくるのが楽しみなまち
古き良き時代を伝える“ゆっくりズム”のまち
生命を大切にして地域資源を活かすまち など

5. 参加者からの新市将来構想へのメッセージ(ふりかえりシートより)

ワークショップの各回の終了後に、メンバーに書いていただいたふりかえりシートには、その日の感想が書かれています。その中から、新市将来構想へのメッセージといえる言葉を以下に紹介します。

- 各市町村を知ることが新しい市を考えていく上で必要。
- パッチワーク的なまちづくりという意見、一つにまとめるのではなく、個性を出し、遠くから見るといい感じ、良い表現。
- 小さくても具体的な問題を取り上げたい。
- 大きなビジョンは夢に終わるのではないかと心配。達成の仕組みづくりは誰が考えるの？。
- 楽しい人が多い。合併したらもっと楽しいなあ。
- 各市町村のすばらしい歴史を感じました。
- みんなの話し合いでワークショップの方向性が見えた。
- 合併は環境だけを整えても難しいのでは？住民の思考を変える何かがないと。
- 地元の産物・加工品・名所いっぱいあるのにいかにしてアピールするか。
- 市での各地域（今の各市町村）の役割について考えてらっしゃる方が多いようですが、新市としてのビジョンを考えると、むしろ新市全体としての県や国や世界での役割を考えた方が、バラバラにならず、イメージしやすいと思います。
- プラス思考で合併を考えると内容は大差ないようですが、マイナス思考の方もいるのでいざとなると大変なんだろうな。
- どのグループも地域の個性を大切にしたいと感じている。
- どの班にも地産地消とか、高齢者資源とか、小さなコミュニティとか、私が強調したいことが入っていて、みんな同じ思いなんだと思えてうれしかった。
- もっともっと時間をかけて話し合えたら...と思いました。
- これだけの人数日数を使ったのだから、新市構想にワークショップの発表を生かして欲しい。
- 新市に向けて住民の意識改革をどのようにして広めていくか課題だと思います。
- 顔を見て話し合うことが元気の元だなあと思いました。
- おつかれさまでした！一つでも、いや、一つといわず新しい市の中で生かしてください。
- こんな会議を各市町村でも是非やってほしい。一部の方だけの委員会だけでなく、住民の人にこんな事をさせれば、新市に対してすごーいわくわく。
- 平和的に他地区の方々と話せる場所に参加させてもらったことに感謝します。



長岡地域における
将来構想策定のための
**地域アンケート調査
結果報告書(抜粋版)**

2003.6.9

長岡地域任意合併協議会事務局

地域アンケート調査（本調査）概要

(1) 調査目的

“地域の総意”としての一般住民の意向を把握する。
 将来構想素案作成時の裏付けデータとしての活用を図る。
 合併協議の進捗をアナウンスする広報手段としての効果を考慮する。

(2) 調査方法（郵送調査）

調査対象者を構成市町村が住民基本台帳より無作為抽出法及び系統抽出法により抽出し、調査票を直接対象者に郵送対象者が記入済み調査票を返送する。

(3) 対象者およびサンプル数

対象市町村居住の住民を対象とし、母集団は約30万人（合併後人口規模）、有効回答数3500サンプル、発送数7000（回収率50%想定）と設定する。実際の配布については、合併前各市町村人口構成比を基本とした2段階抽出法による。
 ＊サンプル数は、有効サンプルが多くなるように丸めた数字。

各市町村サンプル配布数

相対誤差	0.2		市町村	人口(人)	人口構成比(%)	配布数(枚)
信頼度	1.96	信頼度95%	長岡市	193,414	63.2	4,425
カテゴリー数	36	a × b	見附市	43,526	14.2	996
母集団(N)	300000		栃尾市	24,704	8.1	565
設問数(a)	12		中之島町	12,804	4.2	293
選択肢(b)	3		越路町	14,271	4.7	327
標本抽出率(r)	0.011081		三島町	7,618	2.5	174
有効サンプル数(n)	3324.154	N × r	山古志村	2,222	0.7	51
配布サンプル数	6648.308	n × 0.5	小国町	7,389	2.4	169
			合計	305,948	100	7,000

(4) 実施経過

4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	5/1	5/9
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
調査票作成	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
印刷																																
抽出・ラベル作成																																
封入・ラベル貼り																																
発送																																
督促状発送																																
記入期間																																
回収																																

(5) 調査回収結果

回収段階		回収数	回収率
中間	平成15年5月1日	3278	46.8%
最終	平成15年5月9日	4327	61.8%

調査対象者の属性(全回答数 = 4327)

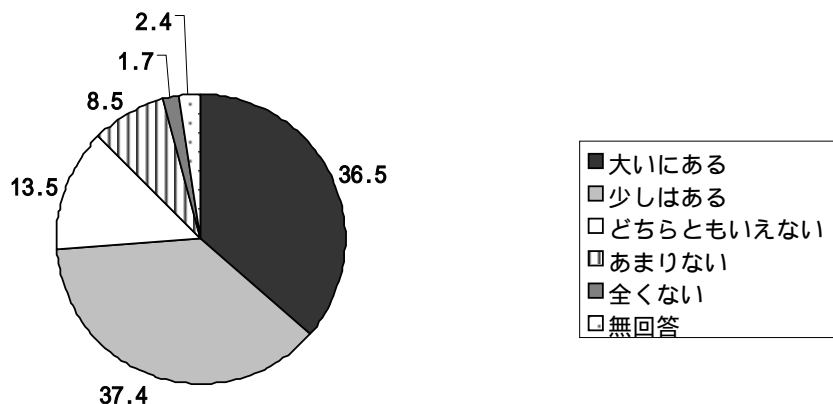
居住市町村	実数	%
長岡市	2570	59.4
見附市	641	14.8
栃尾市	362	8.4
中之島町	187	4.3
越路町	216	5.0
三島町	126	2.9
山古志村	34	0.8
小国町	127	2.9
無回答	64	1.5
勤務・通学先市町村	実数	%
長岡市	2100	48.5
見附市	366	8.5
栃尾市	228	5.3
中之島町	92	2.1
越路町	117	2.7
三島町	58	1.3
山古志村	12	0.3
小国町	66	1.5
その他	577	13.3
無回答	711	16.4
職業	実数	%
農業・林業・漁業	224	5.2
鉱業	9	0.2
建設業	274	6.3
製造業	713	16.5
卸売・小売・飲食業	417	9.6
金融・保険・不動産業	96	2.2
運輸・通信業	143	3.3
サービス業	477	11.0
公務	230	5.3
その他の有識者	271	6.3
主婦	676	15.6
学生	68	1.6
無職	460	10.6
その他	174	4.0
無回答	95	2.2

就業形態	実数	%
会社員(常勤被雇用者)	1616	37.3
パート・アルバイト	529	12.2
会社役員・経営者	219	5.1
公務員	222	5.1
自営	274	6.3
家族従業者	149	3.4
家庭内職者	64	1.5
就業していない	943	21.8
無回答	311	7.2
性別	実数	%
男	2019	46.7
女	2171	50.2
無回答	137	3.2
年齢	実数	%
20歳代	557	12.9
30歳代	672	15.5
40歳代	848	19.6
50歳代	1054	24.4
60歳以上	1043	24.1
無回答	153	3.5
現在市町村居住年数	実数	%
5年未満	261	6.0
5～9年	235	5.4
10～19年	451	10.4
20～29年	859	19.9
30年以上	2440	56.4
無回答	81	1.9
家族構成	実数	%
単身	260	6.0
夫婦(子供なし)	508	11.7
親子(2世代)	2001	46.2
親子孫(3世代)	1212	28.0
その他	218	5.0
無回答	128	3.0

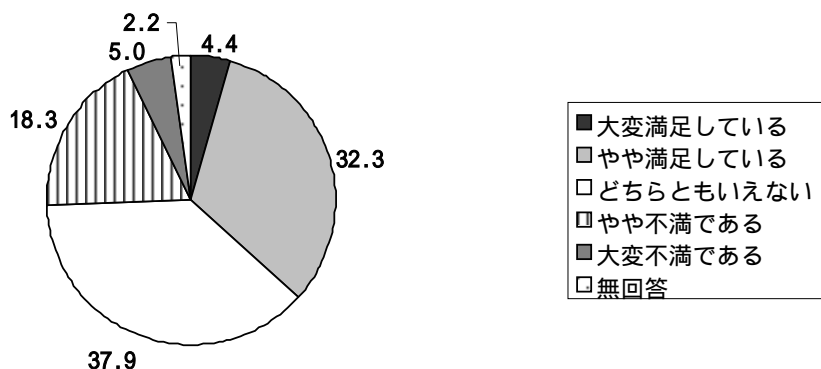
結果要旨

- 総合的には、住民の皆さんは、地域に対する愛着があり、今後への期待も高く、現在の行政サービスに対する満足も一定あるという結果となりました。
- 若い世代の愛着も十分にありますが、高齢層・長期居住者ほど、より高い愛着や誇りを持っています。
- 地域別では、1-1で、山古志村のほぼ全員(94.1%)が、愛着や誇りがあると答えているのが目立ちます。

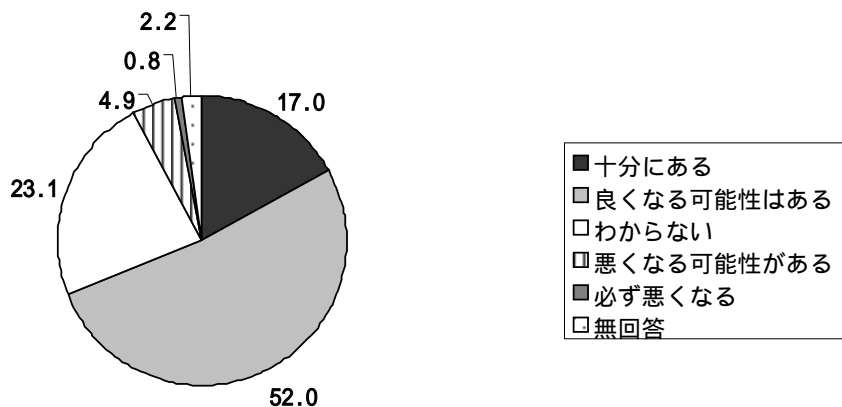
1-1 お住まいの地域または市町村に、愛着や誇りはありますか(%)



1-2 市町村のあり方や行政サービスに満足していますか(%)



1-3 もっと良くなる可能性は(%)

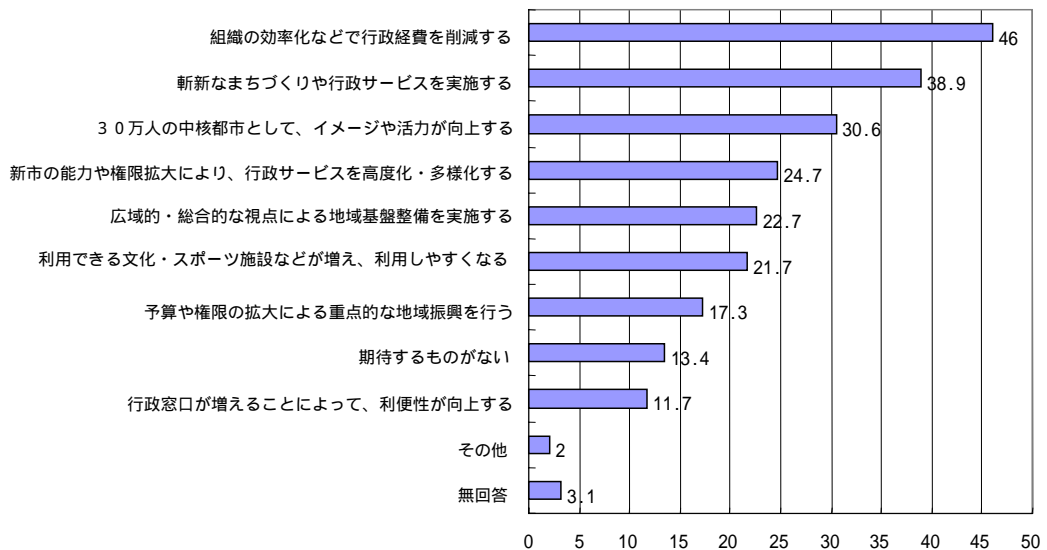


合併に対する期待と不安

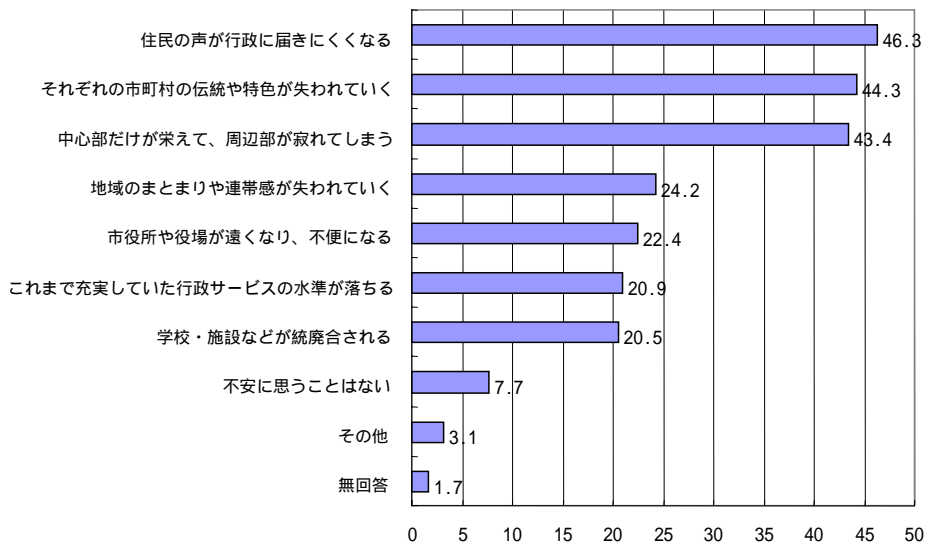
結果要旨

- 期待するものは「組織の効率化などで行政経費を削減する」「斬新なまちづくりや行政サービスを実施する」ことであり、これまでのやり方にこだわらない改革を求めています。
- 不安は「住民の声が行政に届きにくくなる」「それぞれの市町村の伝統や特色が失われていく」「中心部だけが栄えて、周辺部が寂れてしまう」こと。この不安を払拭するためにも、行政への住民の声の反映や参加の保障、および市中心部だけでなく周辺部にも配慮したきめ細かな対策が必要と考えられます。
- 「住民の声が行政に届きにくくなる」「中心部だけが栄えて、周辺部が寂れてしまう」不安は、長岡市以外で高く、「それぞれの市町村の伝統や特色が失われていく」不安は、長岡市で高くなっています。

2-1 合併に際し、期待すること(%)



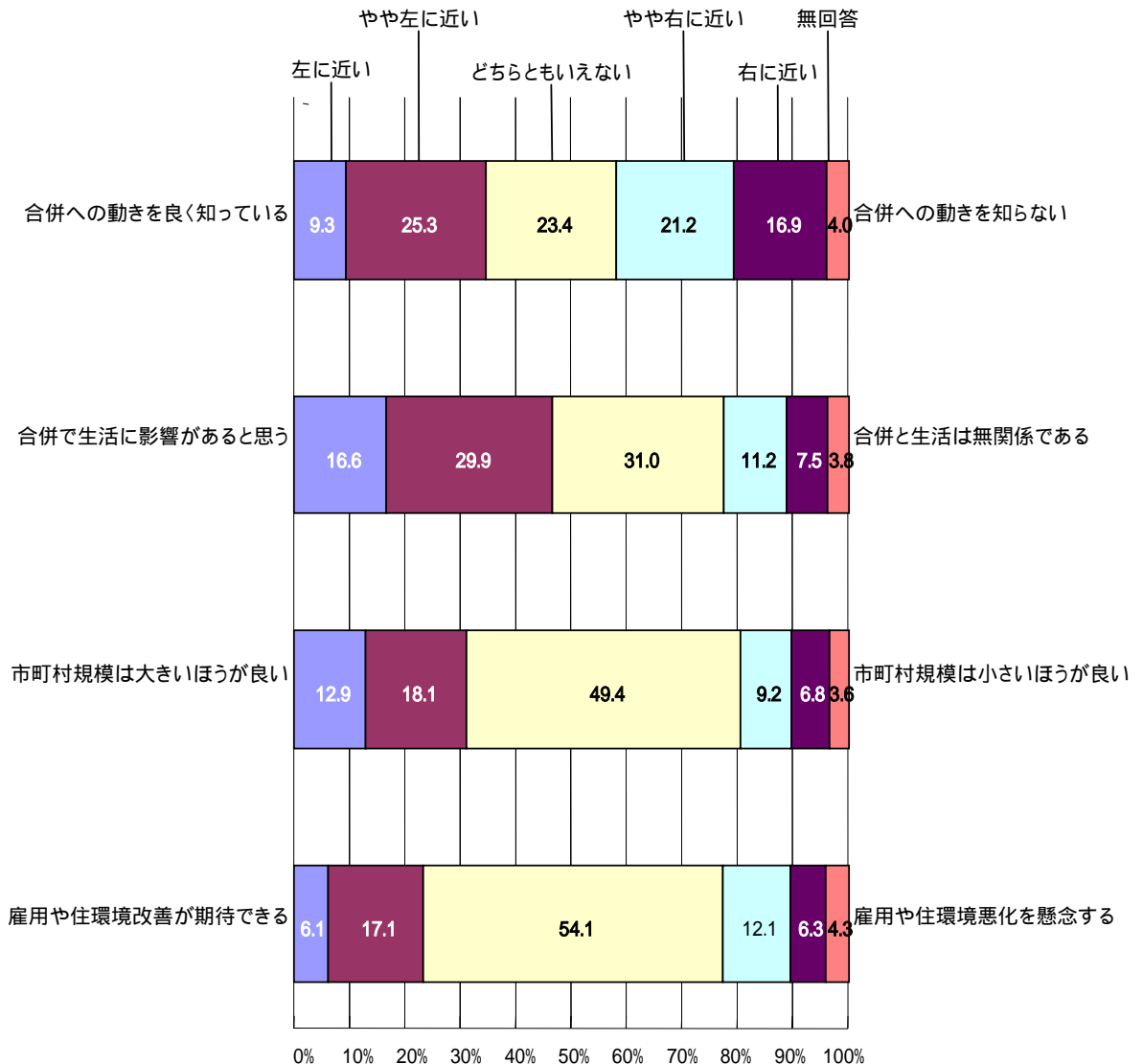
2-2 合併に際し、不安に思うこと(%)



市町村合併に対する基本認識

結果の要旨

- 以下のような、二つの対比する選択肢のどちらに考え方が近いかという質問に対しては、合併の生活への影響で、やや「影響がある」と考える人が多いのを除くと、回答は分散しており特に偏った結果とはなりませんでした。(単位%)
- 市町村規模および雇用・住環境変化に関する設問には、約半数が「どちらともいえない」の回答であり、立場のはっきりした住民は多くないようです。
- 若い世代、女性ほど合併への動きに対する認識が低く、長岡市では「合併で生活に影響がある」と考えている人は38.6%に留まっています。

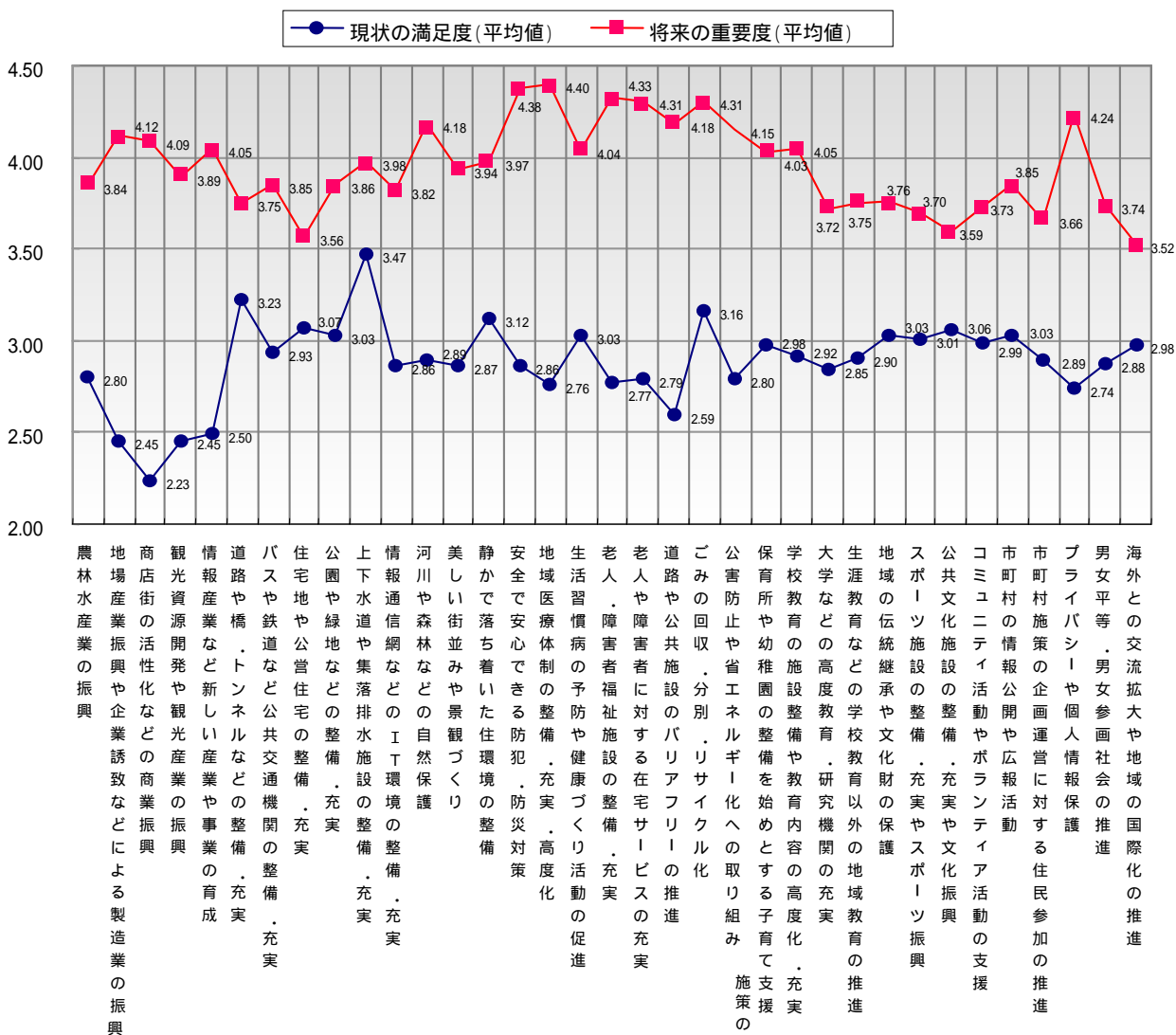


個別行政テーマの現状満足度と今後の重要度

結果要旨

- 個別行政施策についての現状の満足度と今後の重要度の認識は以下のようになります。
(5段階評価の平均点をグラフ化。3点が基準となる)
- 現状満足度の高いもの(3.1点以上) = 「上下水道や集落排水施設の整備・充実」「道路や橋・トンネルなどの整備・充実」「ごみの回収・分別・リサイクル化」「静かで落ち着いた住環境の整備」
- 今後重要なもの(4.1点以上) = 「地域医療体制の整備・充実・高度化」「安全で安心できる防犯・防災対策」「老人・障害者福祉施設の整備・充実」「ごみの回収・分別・リサイクル化」「老人や障害者に対する在宅サービスの充実」「プライバシーや個人情報保護」「河川や森林などの自然保護」「道路や公共施設のバリアフリーの推進」「公害防止や省エネルギー化への取り組み」「地場産業振興や企業誘致などによる製造業の振興」「商店街の活性化などの商業振興」

4 現状の満足度 今後の重要度 (平均点)



個別行政テーマの複合分析(総合)

個別行政テーマの分析総合表 現状評価と今後の重要性評価に即して、4つに分類すると以下のようになります。

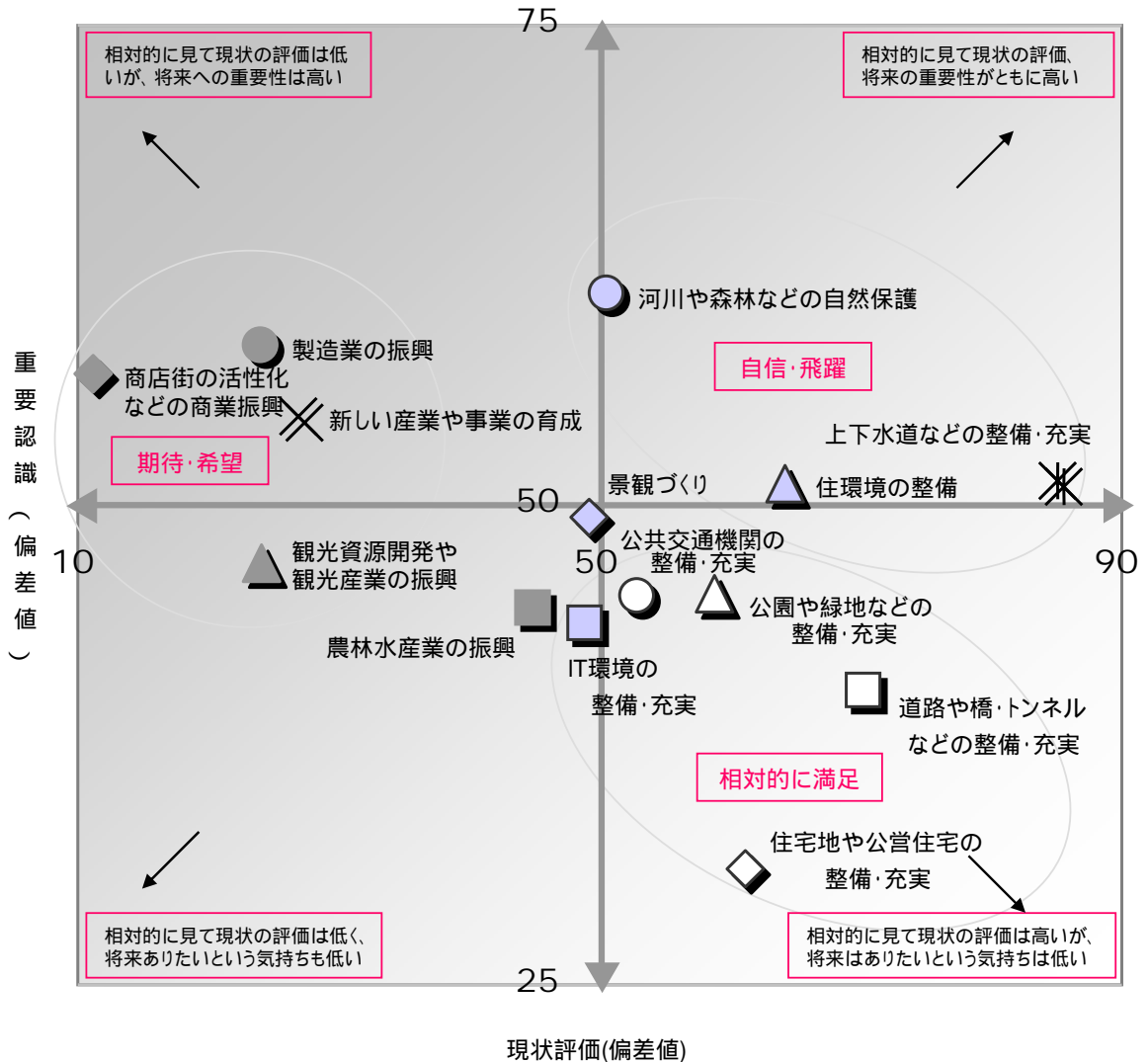
	現状の弱み(数字は偏差値)				現状の強み(数字は偏差値)			
	課題事項	現状評価	重要認識	課題度	強みを伸ばす	現状評価	重要認識	課題度
重要	商店街の活性化などの商業振興	11.3	56.9	45.6	河川や森林などの自然保護	50.7	61.0	10.3
	地場産業振興や企業誘致などによる製造業の振興	24.2	58.3	34.1	学校教育の施設整備や教育内容の高度化・充実	51.9	54.7	2.8
	地域医療体制の整備・充実・高度化	42.5	71.5	29.0	ごみの回収・分別・リサイクル化	66.4	67.1	0.7
	道路や公共施設のバリアフリーの推進	32.8	60.9	28.1	保育所や幼稚園の整備を始めとする子育て支援施策	55.9	53.8	-2.1
	情報産業など新しい産業や事業の育成	27.0	54.7	27.7	生活習慣病の予防や健康づくり活動の促進	58.8	54.2	-4.6
	老人・障害者福祉施設の整備・充実	43.4	68.1	24.7	静かで落ち着いた住環境の整備	64.3	51.1	-13.2
	老人や障害者に対する在宅サービスの充実	44.6	67.3	22.7	上下水道や集落排水施設の整備・充実	85.0	51.3	-33.7
	プライバシーや個人情報保護	41.2	63.8	22.6				
	安全で安心できる防犯・防災対策	48.9	70.8	21.9				
	公害防止や省エネルギー化への取り組み	44.8	59.7	14.9				
重要ではない	弱みを克服する	現状評価	重要認識	課題度	特に問題なし	現状評価	重要認識	課題度
	観光資源開発や観光産業の振興	24.1	47.0	22.9	バスや鉄道など公共交通機関の整備・充実	53.0	45.3	-7.7
	美しい街並みや景観づくり	49.1	49.3	0.2	生涯教育などの学校教育以外の地域教育の推進	51.2	40.1	-11.1
	農林水産業の振興	45.0	44.5	-0.5	公園や緑地などの整備・充実	58.7	45.4	-13.3
	通信情報網などのIT環境の整備・充実	48.9	43.7	-5.2	市町村の情報公開や広報活動	58.5	45.0	-13.5
	大学などの高度教育・研究機関の充実	47.8	38.6	-9.2	市町村施策の企画運営に対する住民参加の推進	50.4	35.8	-14.6
	男女平等・男女参画社会の推進	49.8	39.6	-10.2	コミュニティ活動やボランティア活動の支援	56.5	39.4	-17.1
					地域の伝統継承や文化財の保護	58.8	40.7	-18.1
					スポーツ施設の整備充実やスポーツ振興	57.6	37.7	-19.9
					海外との交流拡大や地域の国際化の推進	55.5	29.1	-26.4
					公共文化施設の整備・充実や文化振興	60.3	32.6	-27.7
					住宅地や公営住宅の整備・充実	61.1	31.1	-30.0
					道路や橋・トンネルなどの整備・充実	70.4	40.3	-30.1

複合分析図表の見方

- 前頁で示した個別行政テーマのうち、産業振興とハード系のインフラテーマを、調査における現状評価が高い順に右から左に並べ、さらに今後の重要度によって、上から下に並べると、以下のような図表が描けます。図表で示すと以下のようになります。

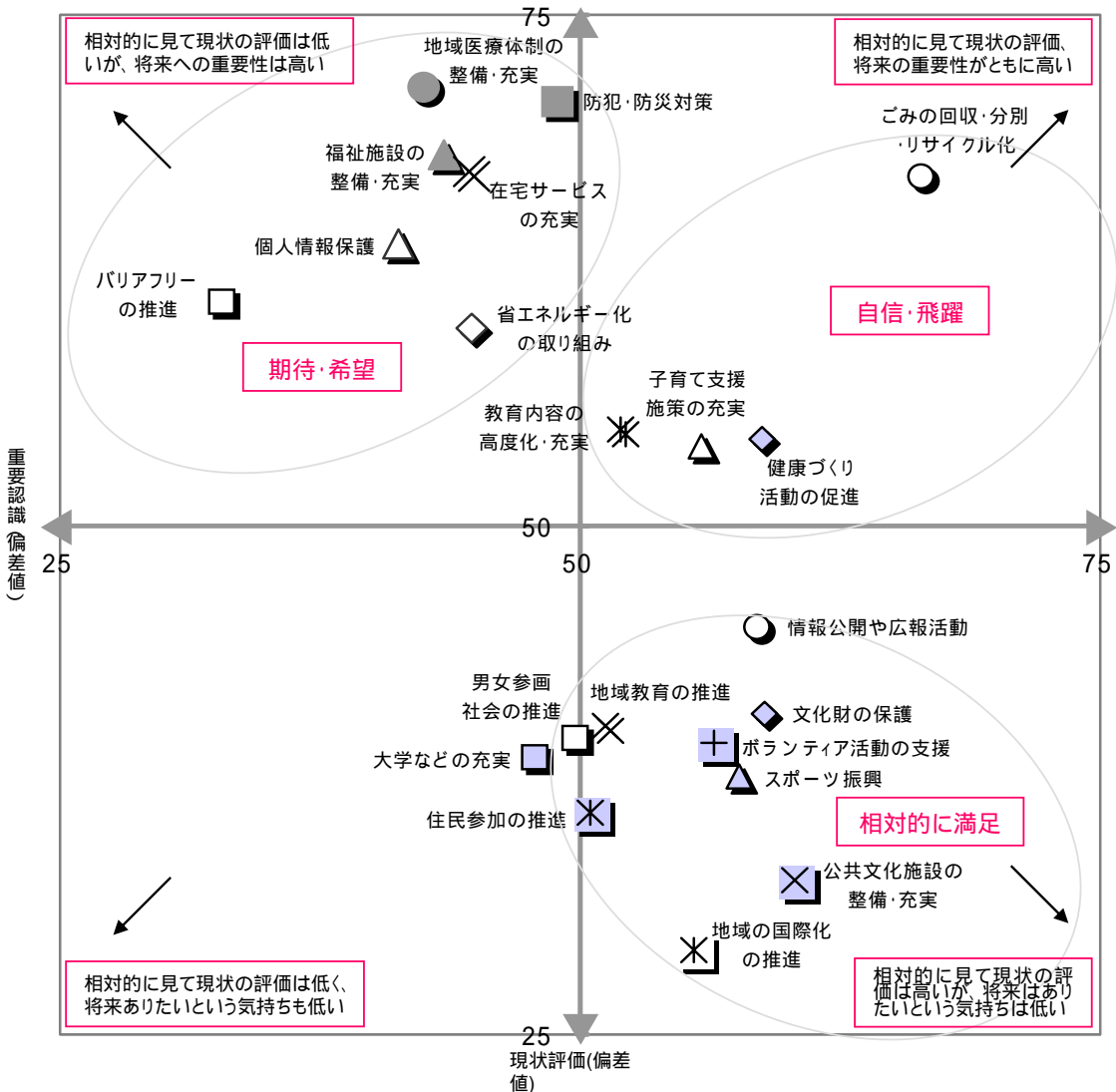
結果の要旨

- 最も重要だとされたのは、「河川や森林などの自然保護」。だが、これについては現在評価も比較的高く、「上下水道や集落排水施設の整備・充実」「静かで落ち着いた住環境の整備」とあわせ、現在の施策を基本的に継続・強化し、「強みを伸ばす」ことが求められているといえます。
- 新しい対策が必要なものは、現状評価が低く、今後の重要度が高いものです。課題度順にあげると、「商店街の活性化などの商業振興」「地場産業振興や企業誘致などによる製造業の振興」「情報産業など新しい産業や事業の育成」となります。また、「観光資源開発や観光産業の振興」も現状評価に比べると、将来の重要度は高いと言え、課題の一つとなっています。
- 各種の産業振興が重要課題である一方、自然保護をおろそかにしないでほしいとの意向が現れています。



結果の要旨

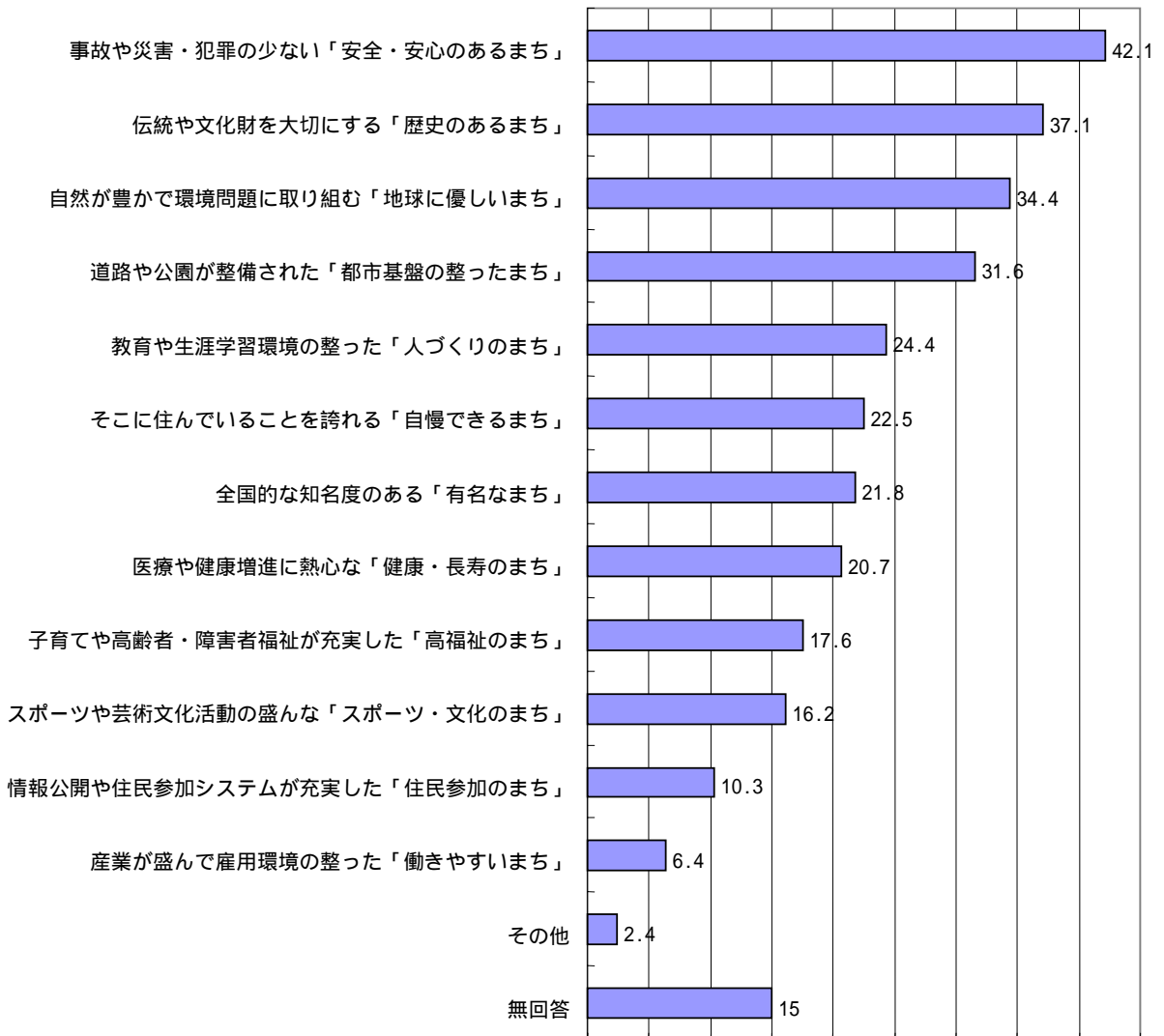
- 10ページで示した個別行政テーマのうち、ソフト系および行政運営に関するテーマを図表で示すと以下のようになります。
- このうち、右上の領域にある「ごみの回収・分別・リサイクル化」「生活習慣病の予防や健康づくり活動の促進」「保育所や幼稚園の整備を始めとする子育て支援施策」「学校教育・教育高度化」については、強みを伸ばす重点テーマとして、現状の維持・強化が望まれています。
- 左上領域の「防犯・防災対策」「地域医療体制の整備・充実・高度化」「老人・障害者福祉施設の整備・充実」「老人や障害者に対する在宅サービスの充実」「プライバシーや個人情報保護」「バリアフリーの推進」「公害防止や省エネルギー化への取り組み」は、現状評価が低く、今後の重要度が高いものでこれらの項目については、新しい対策も必要になると考えられます。
- 全体的に重要とされているのは、医療・福祉および環境関連テーマが中心になっています。



結果要旨

- 現在居住する市町村は、「安全・安心のあるまち」であり、続いて「歴史のあるまち」「地球に優しいまち」という認識を多くの住民が持っています。
- 市町村別の第1位は以下のように異なっています。
 - 長岡市 = 歴史のあるまち
 - 見附市 = 安全安心のある町
 - 栃尾市 = 安全安心のある町
 - 中之島町 = 安全安心のある町
 - 越路町 = 地球に優しいまち
 - 三島町 = 安全安心のある町
 - 山古志村 = 安全安心のある町
 - 小国町 = 地球に優しいまち

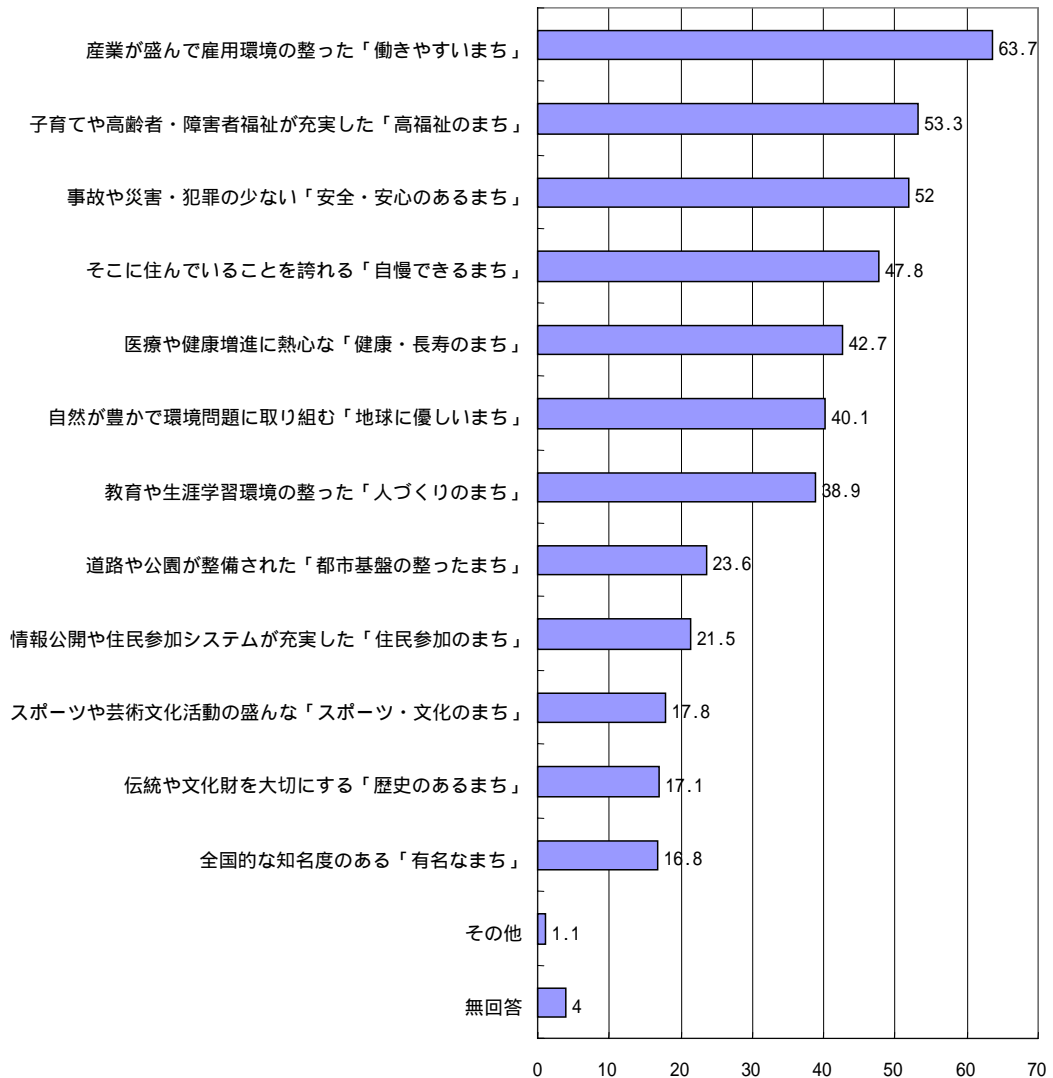
5-2-1 現在の市町村にあてはまる特徴(%)



結果要旨

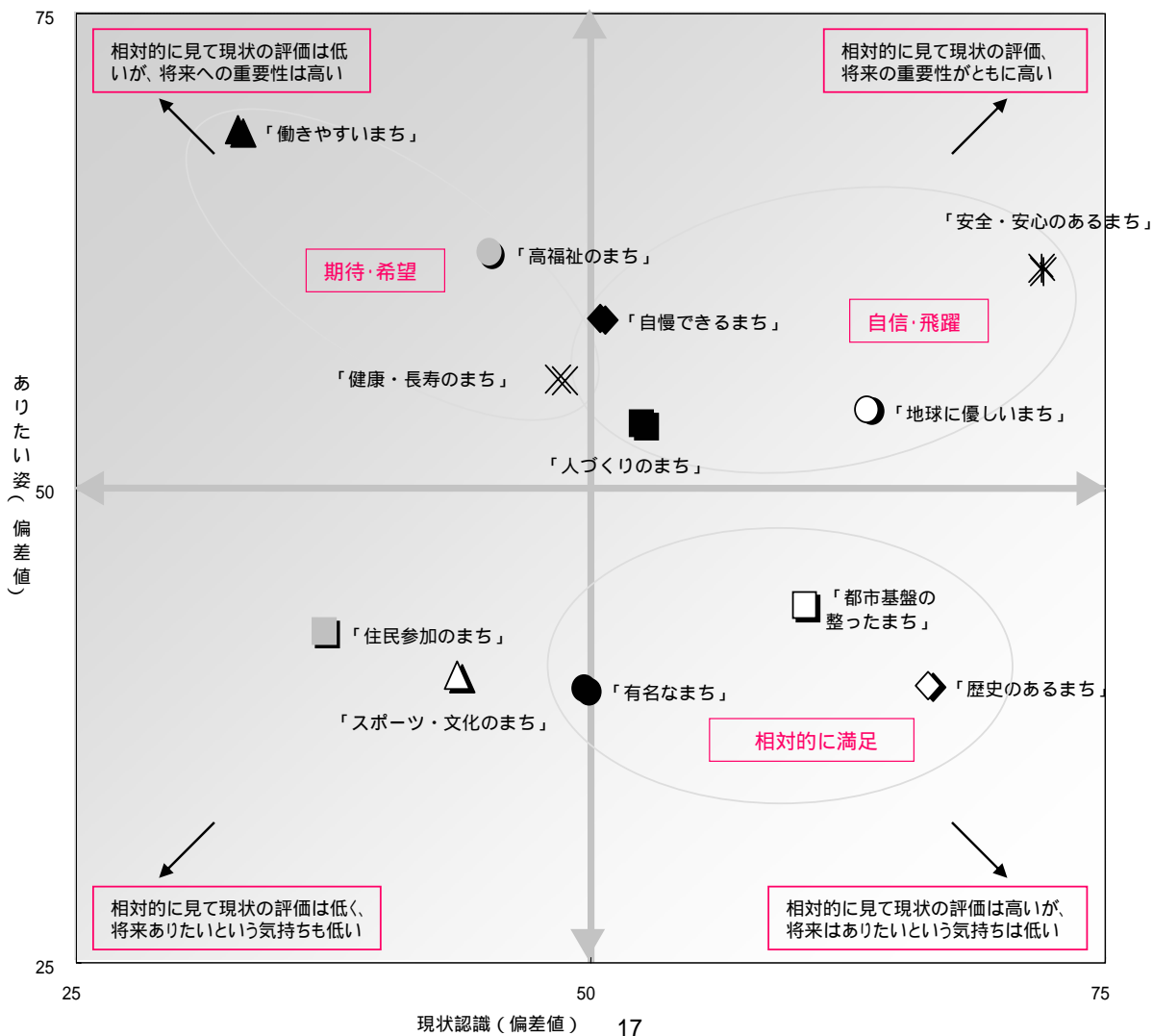
- 今後ありたい姿は、「働きやすいまち」が突出し、続いて「高福祉のまち」「安全・安心のあるまち」となりました。
- ただし、中之島町だけは第一位が「高福祉のまち」となり、小国町では第2位が「自慢できるまち」です
- 市町村別の第2位は以下のように異なっています。
 - ▶ 長岡市 = 高福祉のまち 見附市 = 安全安心のある町
 - 栃尾市 = 高福祉のまち 中之島町 = 働きやすいまち(1位 = 高福祉のまち)
 - 越路町 = 安全安心のある町 三島町 = 安全安心のある町・高福祉のまち(同率)
 - 山古志村 = 高福祉のまち 小国町 = 自慢できるまち

5-2-2 新市のあるべき姿(%)



結果の要旨

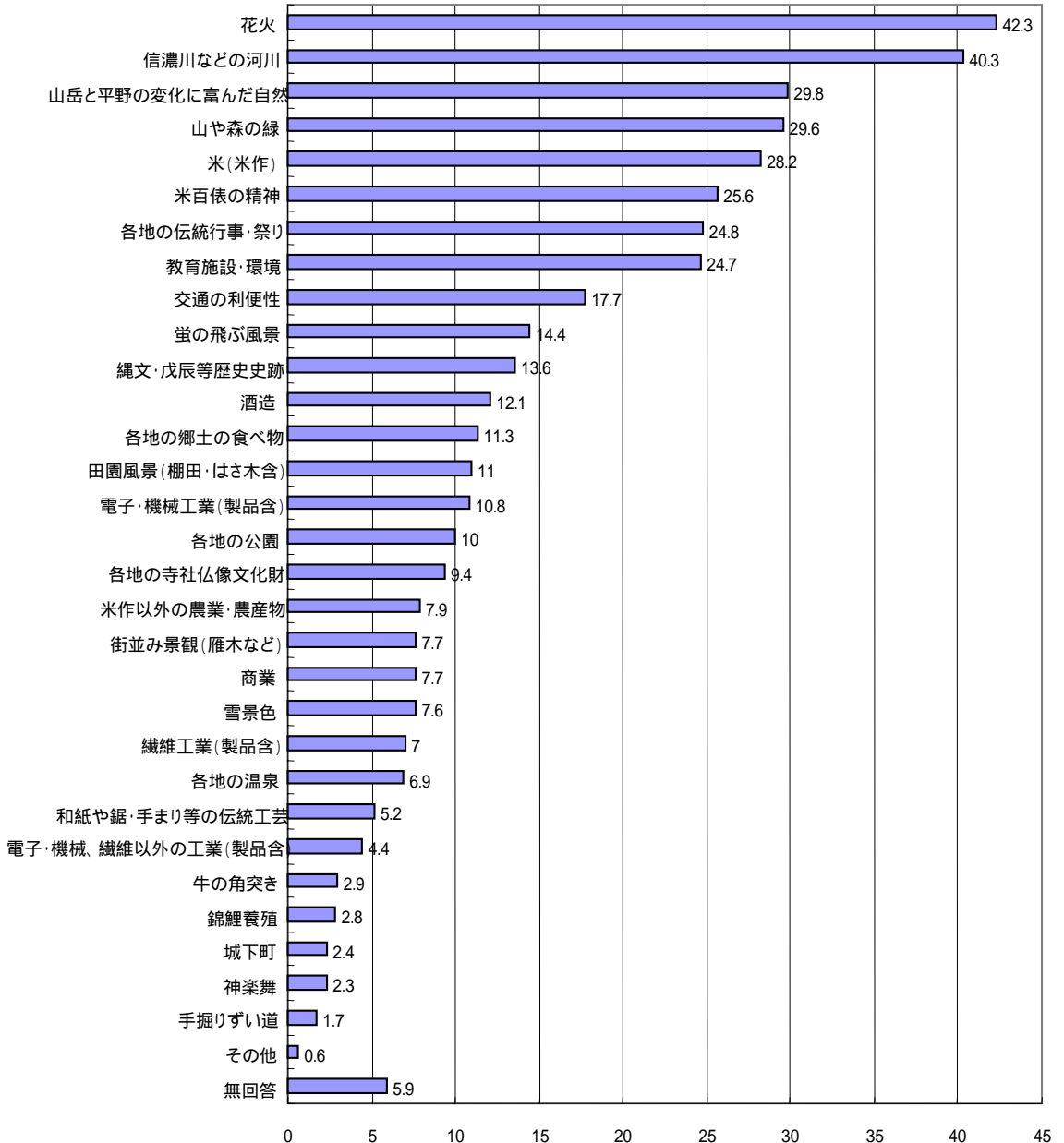
- 町の特性を表す12の項目を、調査における現状評価が高い順に右から左に並べ、さらに今後のありたい姿の回答率によって、上から下に並べると、以下のような図表が描けます。図表上の各項目の位置から、以下のことがわかります。
 - 現在そうであり、将来もそうありたい姿 = 「安全・安心のあるまち」「地球に優しいまち」「人づくりのまち」「自慢できるまち」
 - 現在はそうではないが、今後そうなりたい姿 = 「働きやすいまち」「高福祉のまち」「健康・長寿のまち」
- それぞれの「ありたい姿」と「現状の姿」を対比させると、大きなギャップのあるのは「働きやすいまち」であり、次いで「高福祉のまち」です。この二つの実現が、今後の大きな課題といえます。



結果の要旨

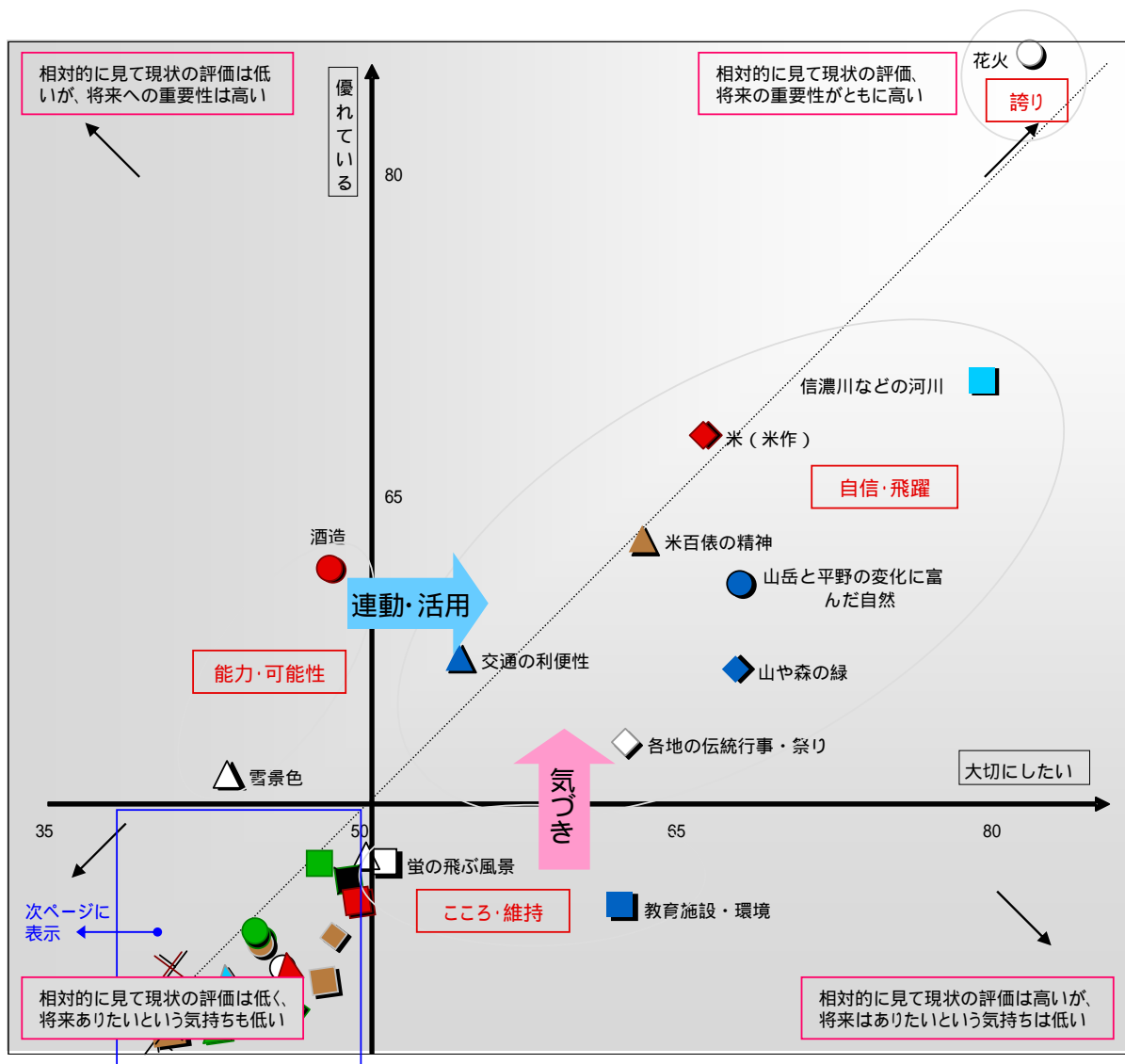
- 住民にとって大切な地域資源は、「花火」「信濃川などの河川」が1・2位であり、「山岳と平野の変化に富んだ自然」「山や森の緑」「米(米作)」「米百俵の精神」「各地の伝統行事・祭り」等が続いています。

5-4 大切にしたいもの



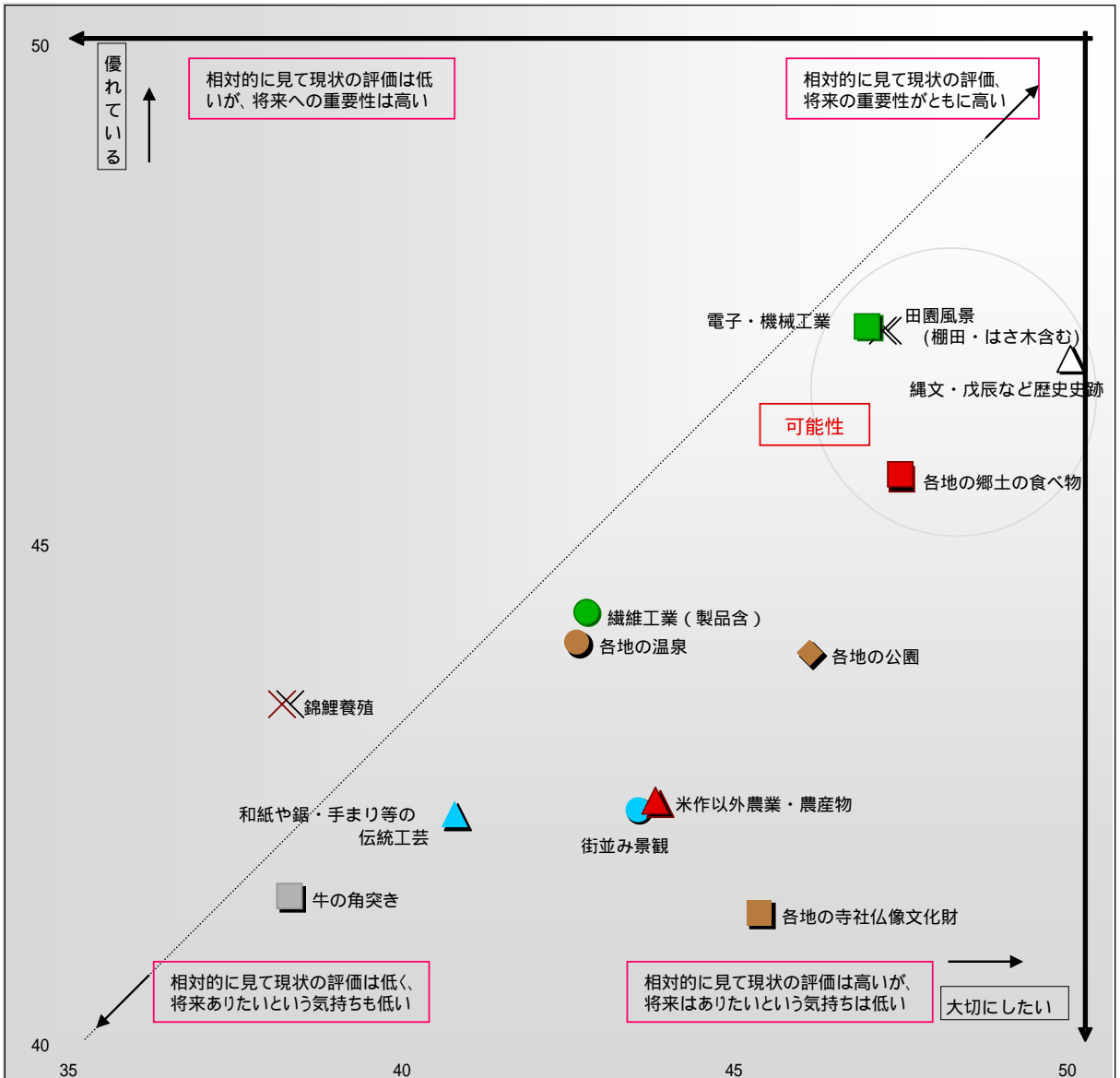
結果の要旨

- 主要な地域資源について、住民にとって大切なものと、他地域に比べて優れているものは、ほぼ一致しています。
 - ▶ 地域住民の意向に即した地域発展のための資源となりうるものは、「花火」が突出しており、「信濃川などの河川」「米(米作)」「米百俵の精神」「山岳と平野の変化に富んだ自然」「山や森の緑」「各地の伝統行事・祭り」といった伝統・自然資源に加えて、「交通の利便性」があります。
 - ▶ 「教育施設・環境」「蛍の飛ぶ風景」は、特に優れてはいないかもしれませんが、地域住民にとっては大切なものであり、今後も維持・充実させるべきものといえます
 - ▶ 「酒造」「雪景色」などは、住民にとっての価値はそれほど大きくはありませんが、今後の地域振興の資源となる可能性が十分にあります。



結果の要旨

- 前頁で詳細表示できなかったその他の地域資源の全体評価は以下のようになっています。
- 「縄文・戊辰など歴史史跡」や「田園風景(棚田・はさ木含む)」は、観光・伝統文化資源として、また、「各地の郷土の食べ物」はアイデンティティ資源および観光などに活用する資源として、前頁の特徴的な地域資源とともに活用できるものだと考えられます。
- 産業資源としては、「電子・機械工業」が、産業の軸となるものとして、全体的な支持を集めています。



結果の要旨

- 全体集計結果は前頁・前々頁の通りですが、現市町村別に集計すると、大切なもの、優れているものの上位5位は、それぞれ以下ようになります。
- 各地域で、大切なもの、優れているものは、それぞれ異なっていますが、特に山古志村の回答は全体及び他地域と大きく異なったものとなっています。

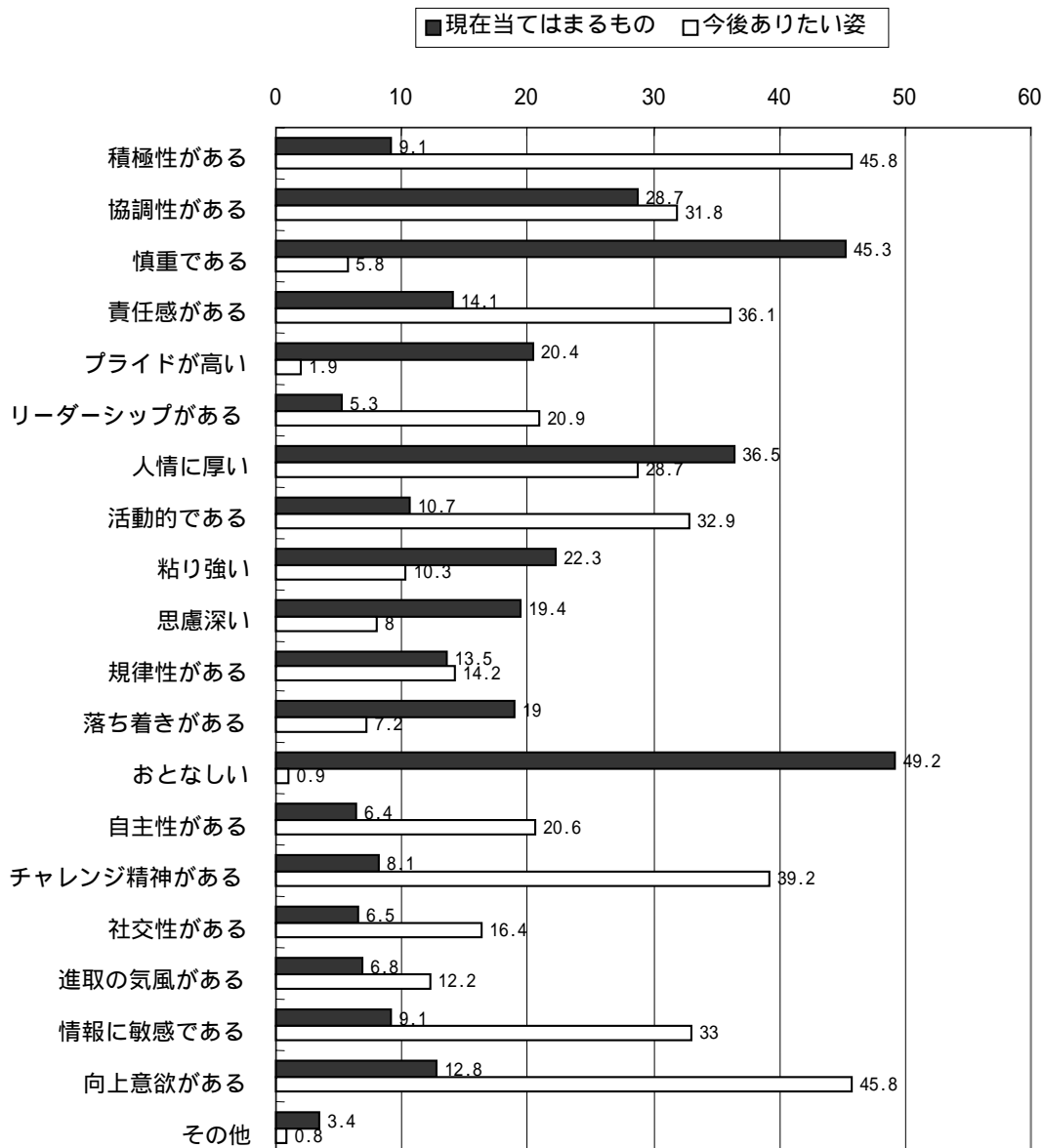
		長岡市		見附市		栃尾市		中之島町	
大切	花火	53.6	山や森の緑	33.9	山や森の緑	40.1	信濃川などの河川	44.9	
	信濃川などの河川	48.6	変化に富んだ自然	33.4	変化に富んだ自然	36.2	米(米作)	35.8	
	米百俵の精神	33.2	米(米作)	30.4	伝統行事・祭り	28.7	変化に富んだ自然	28.3	
	変化に富んだ自然	28.2	花火	29.5	米(米作)	27.9	伝統行事・祭り	28.3	
	米(米作)	27.0	信濃川などの河川	26.7	繊維工業	22.7	花火	27.3	
優れている	花火	71.4	花火	40.7	山や森の緑	42.5	米(米作)	50.3	
	信濃川などの河川	45.7	米(米作)	32.8	変化に富んだ自然	37.0	信濃川などの河川	44.9	
	米百俵の精神	38.1	繊維工業	29.5	米(米作)	30.4	花火	32.6	
	米(米作)	33.4	変化に富んだ自然	28.5	花火	29.6	田園風景	28.3	
	酒造	28.1	山や森の緑	25.7	酒造	28.5	交通の利便性	26.7	
		越路町		三島町		山古志村		小国町	
大切	信濃川などの河川	45.4	山や森の緑	40.5	山や森の緑	47.1	山や森の緑	43.3	
	蛭の飛ぶ風景	41.2	変化に富んだ自然	35.7	田園風景	44.1	変化に富んだ自然	31.5	
	米(米作)	31.5	花火	35.7	牛の角突き	44.1	蛭の飛ぶ風景	27.6	
	教育施設・環境	29.6	伝統行事・祭り	30.2	錦鯉養殖	41.2	伝統行事・祭り	27.6	
	山や森の緑	29.2	信濃川などの河川	28.6	手掘りずい道	29.4	米(米作)	26.0	
優れている	酒造	54.6	酒造	46.8	牛の角突き	52.9	山や森の緑	46.5	
	蛭の飛ぶ風景	50.5	花火	44.4	錦鯉養殖	50.0	米(米作)	36.2	
	米(米作)	40.7	山や森の緑	39.7	手掘りずい道	44.1	伝統工芸	30.7	
	信濃川などの河川	36.1	米(米作)	36.5	山や森の緑	41.2	変化に富んだ自然	28.3	
	花火	35.2	変化に富んだ自然	30.2	田園風景	38.2	蛭の飛ぶ風景	27.6	

結果の要旨

■ 集計の結果は以下のようになりました。(単位%)

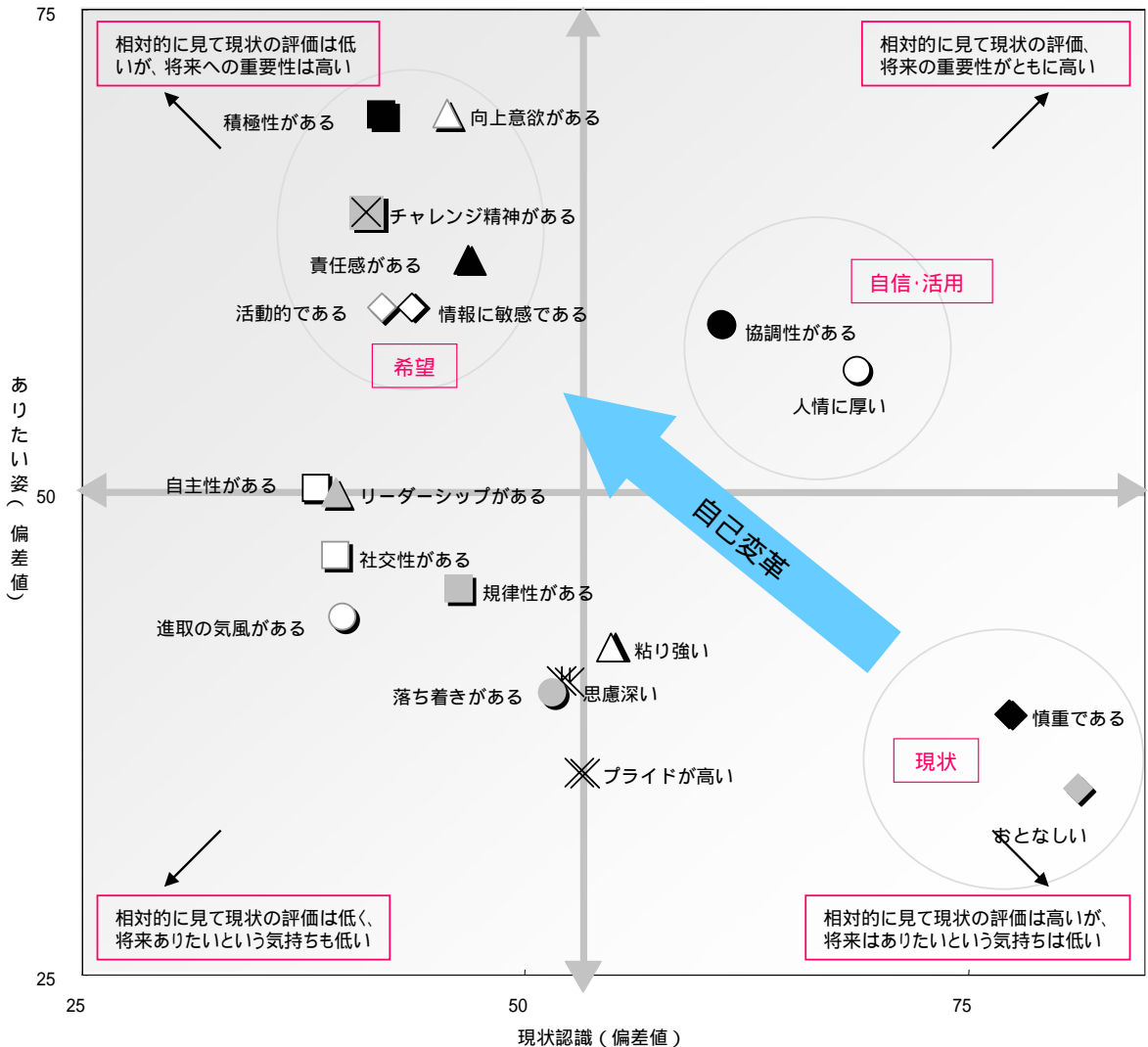
- ▶ 現在の姿 = 「おとなしい」「慎重である」「人情に厚い」「協調性がある」
- ▶ 今後そうなりたい = 「積極性がある」「向上意欲がある」「チャレンジ精神がある」「責任感がある」

5-1 個性

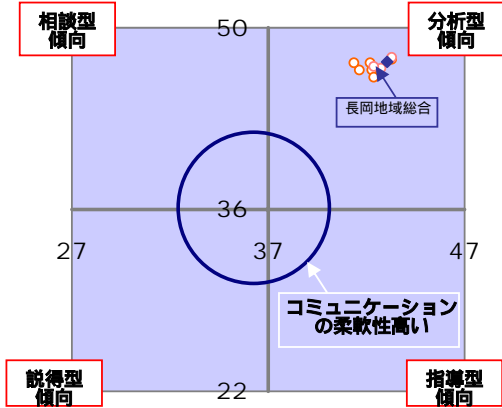


結果の要旨

- 図表上の位置から、以下のことがわかります。
 - 現在そうであり、将来もそうありたい = 「協調性がある」「人情に厚い」
 - 現在はそうではないが、今後そうなりたい = 「積極性がある」「向上意欲がある」「チャレンジ精神がある」「責任感がある」「情報に敏感である」「活動的である」「リーダーシップがある」「自主性がある」
 - 現在そうであるが、将来はそうありたいとあまり思わない = 「慎重である」「おとなしい」「粘り強い」「思慮深い」「落ち着きがある」「プライドが高い」
- 「協調性」や「人情に厚い」という特性を維持しつつ、現在の「おとなしく慎重である」姿から「情報に敏感で、積極的かつチャレンジング(挑戦的)に活動し、向上していきたい」「自主性を持って責任のあるリーダーとして振舞いたい」という意向が表れています。



地域全体の人柄・性格(得点評価)



結果の要旨

現時点までの大まかな分析結果を見ると、長岡地域の全体傾向は、次ページの性格類型から分析型となりました。

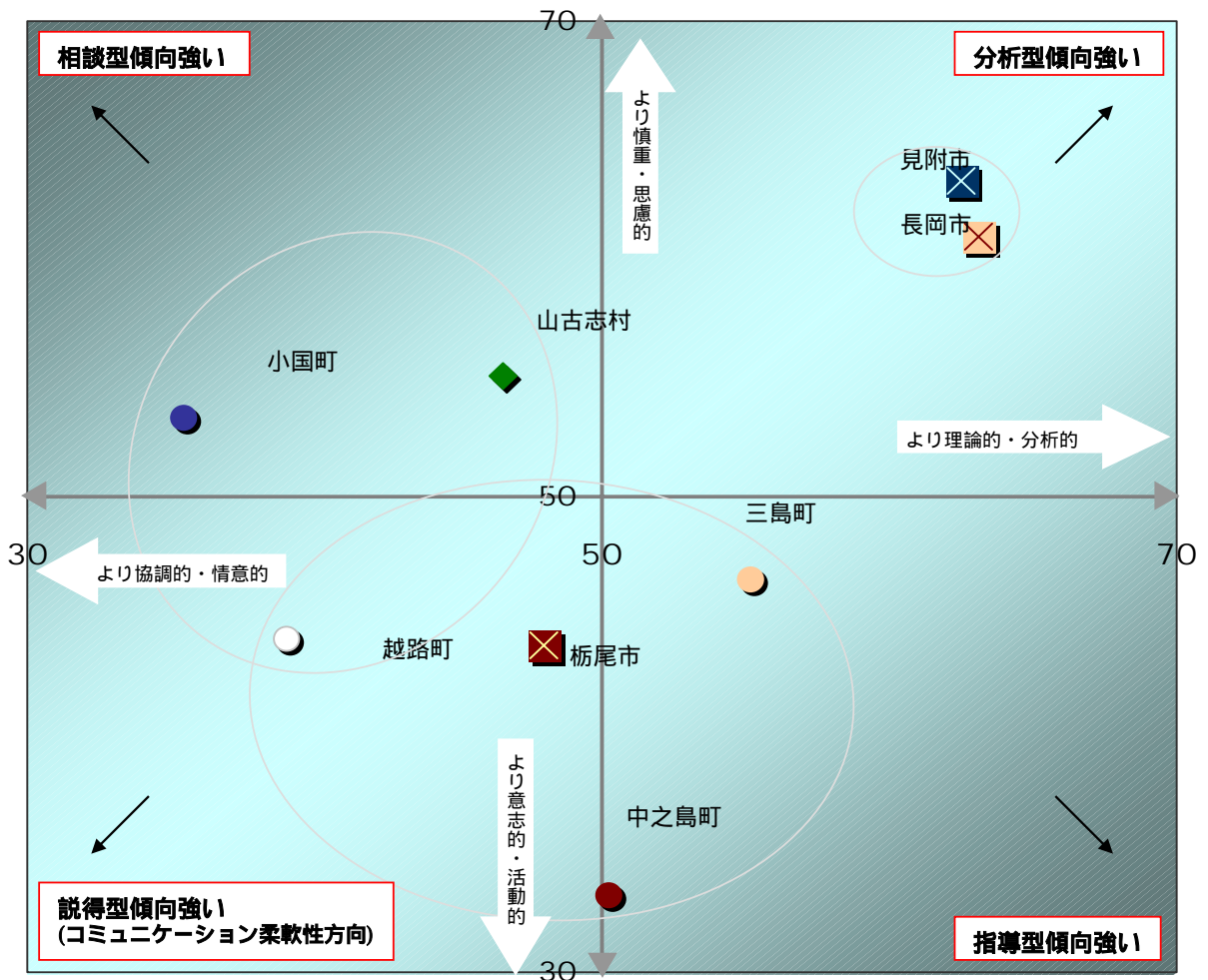
地域間での平均的な性格の開きは小さなものですが若干、次のような地域差がみられます。

特に都市部と地域部で差が見られます。新市像としては、それぞれの良い面を認め合いながら活用して行くことが望まれます。

- 説得型傾向・・・越路町
- 分析型傾向・・・見附市、長岡市 (都市住民)
- 相談型傾向・・・山古志村、小国町
- 指導型傾向・・・中之島町、三島町、栃尾市

*これは、あくまで平均的な人柄です。また、性格類型は善悪の評価とは一切関係ありません。

各市町村の人柄・性格(偏差値)



【コミュニケーションにおける性格類型の例

示】

相談型.....和や協調・柔軟性を重んじ、他の人へは援助的です。人との関わりも苦しさがなく親しみやすく、競争心を煽ったり、脅威を与えないので、人から受け入れられやすいタイプと言えます。仕事を進めるうえでも対立をなるべく避けて同意的でイニシアチブ(主導権)を他に与えながら成果を上げようと努めます。また、人の心や感情を大切にする一方、目標を立てたり、理論的に計画性をもって、組織的な物事の進め方をするのが苦手な面がある場合もあります。

分析型.....このタイプは思慮深く、対立や競争を好まない傾向が強く、物静かな印象を与えます。また、人の感情や気持ちよりも調査・分析といった実証的な理論を好むために一見冷たい人のように誤解される面もあります。しかし、誠実にデータを集めて課題解決にあたらうとする態度が信頼を集めます。また、慎重さゆえに行動のチャンスを逸してしまい、ストレスを高めることもあるため、おおらかにリラックスすることが成功の鍵ともなりません。

説得型.....社会的で躍動的なコミュニケーションを持つひとのグループです。肩のこらない友好的な面が周囲から受け入れられ、喜ばれます。着想やアイデアが豊富で、直ちに行動に移したり、表現するために刺激的な印象を与える反面、時に押し付けや独断となり、コミュニケーションの障害となることがあります。また、仕事や人間関係で認められるために競争的になり過ぎたり、イニシアチブ(主導権)をとることに急いで失敗することがあります。結論を急ぐよりもその過程を楽しむゆとりが加わると、良い面が更に生かされます。

指導型.....行動的、活動的でテンポの速いコミュニケーションを志向する人です。ことに意志決定が速く、短時間で物事を処理する能力に長けています。しかし、相手のペースが遅かったり、予定時間に終わらないなど、思い通りに制御できないときに苛立ったり、落ち込んだりします。一方、イニシアチブ(主導権)、リーダーシップというキーワードに敏感で、特に集団の中での役割意識が強く、また、その立場から権威をもって行動します。ときとして、先を急ぐあまり、人の気持ちや感情の動きに鈍く、他の人々の話をじっくり聞き、耐えるという点において不十分となる場合もあります。

チャートの中心円.....コミュニケーションの表現の柔軟性が高いタイプです。

調査結果のまとめ

地域住民の基本姿勢

- 総合的に住民の地域への愛着は高く、今後への期待も高いと判断できます。
- 合併が生活に影響すると考えている人は、約半数存在しますが、今後の市町村の規模やあり方に対して、立場のはっきりした住民は少なく、ニュートラルな状態にあるようです。地域への基本姿勢や期待・不安の所在は、合併への認識によって多少異なる点ではありますが、極端なものではありません。

合併と新市に求めるものや行政のあり方

- 今後の最大の課題は、「働きやすいまち」を斬新かつ新しい施策展開によって、実現することです。
- 続いて「安全・安心」「人づくり」「地球に優しい」などの地域特性を維持し、医療・福祉・環境関連の施策充実が求められています。
- 合併新市は、住民参加、地域の文化や伝統の維持に配慮しつつ、各地域の個性を生かしたまちづくりと、行政経費の削減を実現することが期待されています。
- 具体的な個別行政テーマの展開としては、以下の要望があります。
 - 現行施策の継続強化
「河川や森林などの自然保護」「学校教育の施設整備や教育内容の高度化・充実」「ごみの回収・分別・リサイクル化」「保育所や幼稚園の整備を始めとする子育て支援施策」「生活習慣病の予防や健康づくり活動の促進」「静かで落ち着いた住環境の整備」「上下水道や集落排水施設の整備・充実」
 - 新しい対策が必要な課題事項
「商店街の活性化などの商業振興」「地場産業振興や企業誘致などによる製造業の振興」「地域医療体制の整備・充実・高度化」「道路や公共施設のバリアフリーの推進」「情報産業など新しい産業や事業の育成」「老人・障害者福祉施設の整備・充実」「老人や障害者に対する在宅サービスの充実」「プライバシーや個人情報保護」「安全で安心できる防犯・防災対策」「公害防止や省エネルギー化への取り組み」

地域資源の評価と活用

- 全体集計から抽出される活用すべき地域資源は、以下の通りです。
 1. 維持・活用・強化すべきもの
「花火」「信濃川などの河川」「米(米作)」「米百俵の精神」「変化に富んだ自然」「山や森の緑」「伝統行事・祭り」「交通の利便性」
 2. 今後も維持すべきもの(1項に加えて) 「教育施設・環境」「螢の飛ぶ風景」
 3. 観光など振興に活用すべきもの(1項に加えて) 「酒造」「雪景色」
 4. アイデンティティ・コミュニティ形成資源(1~3と重複)
「伝統行事・祭り」「花火」「変化に富んだ自然」「郷土の食べ物」「螢の飛ぶ風景」「米百俵の精神」「山や森の緑」「信濃川などの河川」
 5. 産業振興資源(1~3と重複) 「電子・機械工業」「交通の利便性」「米(米作)」「酒造」
- ただし、現市町村別に集計すると、地域資源評価は、それぞれ異なっています。それぞれの地域資源を尊重し、地域の文化・特性に即した特徴を持った地域振興への活用が望まれています。

合併新市に求める地域の間人像

- 地域パーソナリティとしては、「協調性」や「人情に厚い」という特徴を維持しつつ、現在の「おとなしく慎重である」姿から、「情報に敏感で、積極的かつチャレンジング(挑戦的)に活動し、向上していきたい」「自主性を持って責任のあるリーダーとして振舞いたい」という意向が伺えます。

3 有識者ヒアリング調査結果について

有識者ヒアリング調査
-報告書-

2003.6.9
長岡地域任意合併協議会事務局

1. 取材実施概要

1) 調査目的

有識者ヒアリング調査は、地域アンケート調査やまちづくりワークショップが“一般住民の自由な発想から導かれた「なりたい姿」”であるのに対し、“地域を全体視して考えていくオピニオンから導かれる「なりたい姿」”を抽出していくことを目的とした。

2) 活用方法

地域の「なりたい姿」の源泉として将来都市像構築の材料とした。

3) 調査方法

選定したオピニオンに対して、インタビュー調査を実施する。インタビューはおおむね1時間とし、オピニオンの自発的な発想（個人的な意見を含め）から出てくるものを聞き取るものとした。

4) 対象者選定の考え方

各地域に在住する地域づくり等に関わる方から各地域1名以上、合計11名と地域外で活躍されている長岡地域出身の方から4名程度を対象とした。

5) 取材項目

8 市町村の現状について

- 個人的にお考えの地域の現状や課題について、できるだけ具体的に、かつその背景など
- 地域の誇れる特性や今後も大切にしたいもの、および自慢できる地域資源など

8 市町村合併について

- 合併に際して期待すること、懸念すること
- 合併新市における現市町村など各地域の役割分担について

8 市町村合併の今後のあり方について

- 将来ありたい、またはあるべき姿について（イメージなど）
- 特に重要と考える新市の行政施策や行政サービス（個人的な評価・考えなど）

2. 取材対象者と取材日時（敬称略）

地域	氏名	プロフィール	取材日時	
地域在住者	長岡	高田 裕司	(有)山崎組社長・商工会議所常議員、建設部長 合併シンポジウムパネリスト	5月2日(金) 14時30分～
		浅野 ゆう子	地域デザイン研究所・ワークショッププロデューサー 新潟NPO協会事務局長・ ながおか市民大学運営委員 合併シンポジウムパネリスト	4月29日(火) 11時00分～
		内山 弘	長岡歯車資料館館長 長岡郷土史研究会会長	5月2日(金) 13時00分～
	見附	三本 由喜枝	商工会女性部長・マイバック運動(環境問題) チャレンジshopV 代表「いいものみつけによっててえ」事業	4月28日(月) 13時00分～
	栃尾	目黒 日出吉	(有)スミヤ(燃糸業) 産業に明るく、まちづくりへの見識が深い。	5月1日(木) 14時15分～
		廣野 光春	茶店・谷内一商栄会(商店街活性化に取り組む) 中心市街地区画整理推進委員会委員	5月1日(木) 13時00分～
	中之島	小林 光栄	元町総合計画審議会委員 元町議会議員・町教育委員長	5月2日(金) 10時30分～
	越路	半藤 禅一	県農業技術学院講師・人権擁護委員 その他公職多数経験 (県農業改良普及員・県農業大学校講師・民生委員・児童委員)	4月29日(火) 9時00分～
	三島	大島 誠	(有)大島鉄工所社長・消防団副団長・ビジョン策定委員・中学PTA会長歴任・中 学籠球部指導	4月29日(火) 13時00分～
	山古志	五十嵐 與吉	(株)大久保土建会長・村商工会長 映画「手掘り中山隧道の記録」制作委員会委員長	5月1日(木) 9時00分～
小国	中村 満	町商工会副会長 「もちひとまつり」実行委員長	4月28日(月) 10時00分～	
地域出身域外在住者	長岡出身	石積 忠夫	リードエグジビジョンジャパン(株)社長 日本最大の展示会主催会社(コンベンションビジネスの第一人者)	4月22日(火) 10時00分～
	小国出身	林家 こん平	落語家 真打(故:林家三平師匠内弟子) 笑点などで活躍	5月22日(木) 16時30分～
	小国出身	西澤 輝泰	新大教授(総合情報処理センター長・経済学部長・付属図書館長) 県環境審 議会会長・県地域総合研究所理事 国「北陸の地域づくり戦略会議」委員長等	5月14日(水) 10時00分～
	山古志出身	田中 トシオ	理・美容師 1992 アアワールド世界チャンピオン 「やる気おこし、トシオ賞」など村青少年教育活動	5月9日(金) 14時00分～

3. 内容別とりまとめ

1) 地域認識

長岡を中心とする経済・生活圏としての認識

(共通)

- 8市町村は長岡市を中心とする「経済生活圏」であり、共存関係にある。
- 3つの河川と、それが形成した沃野で結びついている。

(栃尾)

- 栃尾市から長岡・見附への通勤者が多く、長岡市とは関係が深い。

(中之島)

- 中之島町は燕・三条などとの関連も深い、基本的に長岡の経済生活圏にある(高校・買物・病院など長岡市の施設を利用する)。

(三島)

- 三島町は長岡市の経済圏にあり、長岡市、特に川西地区との関係は深い(一部ともなっている)。ほぼ7割近くが長岡に通勤。

(小国)

- 小国は柏崎との交流もあるが、長岡市との結びつきが一番強い(渋海川文化圏の発想)。

現状評価

(共通)

- 現状ではNPO法人の数の少なさに表れているように、民間の活動、主体的活動の土壌があまりない(公共の機能が優秀・強力?)。
- 行政と住民の役割分担・関係を明確にし、今後のあり方を検討する必要がある(民間でできることは、民間で行う、など)。

(長岡)

- 長岡市の産業を支えてきた工業が衰退している 国際競争激化、NC化(数値制御化)への取り組みの遅れ 機械設備の老朽化など。
- 長岡の大手通の人通りの少なさなど経済的基盤の衰えが気になる(県外者)。

(見附)

- 見附の織物産業は厳しい環境にあるが、事業主それぞれが自立して努力しているし、地域活性化への住民の自主的な動きもある。

(栃尾)

- 栃尾は織物と農業を中心に発展してきたが、30年前から衰退しつつある。公共工事の削減もあり、街の元気が減少している。
- 繊維産業の現状は厳しいが、高級品で勝負しようとする動きも出始めている。また、川下(ファッション・アパレル・流通)への進出や機能強化を図っている(栃尾発服飾デザインのしかけなど)。

(小国)

- 新潟県人は日本一郷土愛が強い(日本一の県人会)。その中でも「小国会」は最も活発?

地域資源

(共通)

- 8市町村はそれぞれに独自の地域資源があり、それを活かすことが大切（自然や文化を活かした産業やまちづくりは十分に可能）。
- いいものはたくさんあるのだから、もっと地域の文化や自然、生活を自慢してもいいはずだ。
- 食文化は自慢である（米・酒・のっぺ・他）。
- 雪（ウィンタースポーツ）や温泉の観光価値などをもっと高めるべき（県外者）。
- 豊かな水、きれいな土と水。
- 恵まれた道路と交通網。
- 教育環境、教育的歴史史跡と優れた郷土文化。
- 教育や人材育成に優れている地域である。

(長岡)

- 文教都市・文化都市としての施設や基盤がある（図書館・博物館など）。
- 3つの大学。
- 「学校の森」の保存・活用、自然保護・感受性教育の先進的取り組みもある。
- 長岡地域は製造業を中心とした産業がある（現状はあまり良くないが、今後も中心となる）。
- 人材力・技術力は十分にあり、それを生かす総合的な取り組みが必要。

(見附)

- 繊維産業における町民の自主努力と活動、商店街。

(栃尾)

- 食品加工（油揚げ・味噌など）織物、手まりなど。

(中之島)

- 農業基盤の整備については先進的である（基盤整備による一町田圃化の促進など）。
- 交通の便を生かした流通団地・住宅団地も成功している。

(越路)

- 多様な産業が、優秀な人材を資源に存在している。
- 地下資源（天然ガス）は大きな資産である。

(山古志)

- 自然や生活は心のアイデンティティとして、価値あるものである（雪解けの時期・山菜・新芽・食品・水棲動物・他）。
- 多様な観光資源となりうるものがある（棚田・鬼の穴伝説・山菜・みずな・水棲動物、芝桜・かたくりの群生など素朴な花）。
- 特徴的食物がある（とうがん・なんばん、など）。
- 観光資源としての「牛の角突き」「錦鯉」「中山隧道」棚田の米および風景は守っていききたい。

(小国)

- 人材が育つ風土があり、人材力には自信がある(しかし、町から流出しているのが残念)。
- 高齢化への取り組みは先進的だと思う(この水準は維持すべき)。

2) 今後への期待と懸念

新市への期待と懸念(共通)

- 各地域のソフト・ハードを一つに結集して大きなパワーとする「学ぶ」「作る」を目的とする観光開発等も可能。
- それぞれの地域らしさ・地域の良さを活かした活性化を図るべき。
- まずは産業振興・活性化が重要。やはり「もの」や「価値」を生む産業を育てたい。
- 製造業の振興に向けた総合的な取り組みが重要(知識・技術の集中と産学共働による製品開発、オリジナリティ・創造性のある人間教育)。
- 産学協同による「県央中核都市」であり、「住む人に優しく、来る人に優しい」HUMAN CITY。
- 老人が住みやすく元気になる町であってほしい。
- 地域文化・伝統芸能の保存のための施設を。
- 地域の文化を掘り起こして、共有し、それをコミュニティ形成や活性化の材料にする仕掛けを。
- 地域それぞれの文化を結びつけて、より大きな価値を持たせる(大きなイベント+それぞれの祭り等)。
- 市全体のバックアップと同時に、地域の人々自身が参加・行動することが大切。
- 8市町村相互の交流の拡大を期待する(スポーツ交流など)。
- 内部で競うのではなく、他の地域と競う気持ちで合併すべき。イメージとして「環境重視の田園都市的發展」。
- 県内での新潟一極集中は良くない。対抗都市としての新市の活性化は県全体にとっても重要である。
- 地域コミュニティ構築のためにも「拠点」をしっかり整備する必要がある(集落・商店街・センター)。
- 官主導の上からのコミュニティ作りには無理があるし、本当に必要なことかは検討すべき。
- 学校と地域の連携も、進め方によっては、学校の役割を過大化し、学業優先主義になる危険性もある。
- 住民サービスの低下、地域の行政施設・体制の弱体化の恐れが懸念としてある。

地域別の期待と懸念

(長岡)

- テクノポリス構想に基づく、工業都市としての発展(高付加価値化による優位性確立)同時に自然を活かしたまちづくりを。
- コンベンション・エグジビション都市として、また、それをキーとする活性化の可能性は十分にある。

(見附)

- 重要テーマは福祉と教育。子育てには行政の支援が必要。老人福祉は民間(ボランティア)活用を。

(栃尾)

- 長期的視点でじっくり取り組み、衣食住・観光での特色作りを。
「衣」栃尾発ファッション、高級織物など 「食」油揚げ、イチゴ、ワインなど農産加工産業。
「住」住みよい住環境、老人に優しい街、老人施設 「観光」緑や公園を活かした観光（緑 100 年計画）
- 食文化・食の産業興しを期待したい中心部は史跡や寺院を活かした、情緒のある落ち着いた商店街としての活性化が一つの方向。
- 「住」の部分を中心に、落ち着いた住宅地域としての役割分担が考えられる。

(中之島)

- 農業基盤整備事業の継続は、市の助成体制も含め、積極的な支援が必要。

(越路)

- 多様な地域特性を活かし、地域の伝統や文化財を大切にする街。
「キーワード」きれいで豊かな水、便利で安全な町、生き生き女性。

(三島)

- 教育と住宅環境の整備 長岡市の川西地区との一体的発展を期待している。

(山古志)

- 山古志の文化と自然の価値を尊重しつつ、多様な資源を活用する観光産業開発へ（村内外の老若男女が参加・交流する体験農場等）。
- 産業化のアイデア＝独自の植生を活用した食品・農産加工開発、水棲動物の養殖販売（教材などに）。
- 「山古志」の名前を活かしたブランドの確立。

(小国)

- 滞在型リゾート（グリーンツーリズムなど）の拠点。
- 「民泊」「グリーンリース田圃」の活用による交流、交流人口の拡大。
- 「食」をキーワードとする地域の活性化を 食の安全宣言、日常食の再発見と交流資源化（ごっつおの会、のっぺの文化）。

その他、今後のあり方について

- 基本的に規模が拡大することによる活性化や競争が生まれることはいい結果を産むだろう。
- 独自性を持った街のデザインが必要（新潟市を始めとする競合自治体との差別化）。
- 地域密着型の発展が基本にあるべき。
- 官と民のバランスが重要。「行政自治」と「住民自治」の尊重。
- 住民の行動が重要であり、行政はそれを支援。行政のサービス力・調整力の向上が必要。
- 住民主導、自主的な活動を生み出していく必要（それを官が支援する）。
- 産官学の連携がポイントとなる。
- 多様性を前提に、個を大切にする制度や行政を！。
- 今後のまちづくりのポイント＝1) 自主性 2) 人を大切に 3) まず行動を
- 慣例ではない角度から物事を見ることが重要。

- 経済的豊かさだけではない「何か」を見つけたい。いずれにしろ住民自身が価値観や自分の物差しをきちんと持つ必要がある。
- 老人ホームなど福祉の充実は必須（ボランティアの活用、民間活動も含めて）。
- 大学も含めて産業人材の育成教育を行うべき（農業体験、郷土歴史教育、地域産業理解）。
- 新市で検討すべき施策例。
 農業 = 農産品の産直販売へのとりくみ 環境 = ごみの有料化 少子化 = 保育・育児の制度的支援 交通 = 公共交通網の整備、etc.

3) 合併について

合併への動きの認識

- 地方分権、財政、生活圏の一体化の流れの中で、合併は必然と考えているが、職員数削減問題、議員定数問題など解決すべき課題も多い。
- 合併は必要だと思うが説明が十分ではない。財政のためということしか説明されていない。
- 住民がわかっていないといけませんが、今はデメリットしか見えてこない。
- 合併に向かう行政のスピードと住民感覚を一致させる必要がある（住民自身も考える必要）。
- 合併について、良く分からないうちに進んでいる気がする。
- 合併のことを知らない人が多い（特に長岡市）。

合併に対する懸念

- 行政のあり方を真剣に考えている切実な人々の声を十分に反映して、合併およびその後を考えてほしい。
- 歴史的価値を持つ行政文書・古文書の確実な保存を（他や過去の合併では散逸のケースあり）。
- 合併後も伝統ある町名や地名を残してほしい。
- 合併は必要だと考えるが、それぞれの地域の特色を活かしたものでなくてはならない。
- 合併に対する懸念 = 地域と連携した学校教育・人づくり体制の弱体化、行政サービスの低下や負担の増大（水道など）。
- 合併に際しては、市町村ごとの違い・格差をうまく調整していく必要がある。地域の実情に即したきめ細かな行政サービスを。
- 福祉や上下水道インフラなど、現在高水準にあるものを低下すべきではない。
- 長岡市とその他の自然環境や条件の違いを十分踏まえて、今後の市政運営をしてほしい。
- 長岡以外では、単なる周辺部として、だんだん人が少なくなる事態を恐れている。
- 合併新市が共通アイデンティティを持ちえるかどうかは疑問。

その他合併に際しての意見

- 10年後を見据えた視点で、どういう街を作るかを考える必要がある（10年後に自慢できる街を目指す）。
- 地域文化や伝統の継承、地域間の交流などの問題と合併は、基本的に別個の存在と思う。
- 合併に際しては、前向き、チャレンジのスタンスが大切。一人一人が地域を考えていくことが大切。
- 合併を良くするか悪くするかは、これからの行動しだい。
- 合併してもしなくても、地域がやることはやるべき。
- 合併新市にお願いするのではなく、自らの意思と希望をはっきりと示すべきだ。
- 一人一人、地域・地域がしっかりしつつ、共同でもっといいものを作り出していく努力が必要。
- 合併によって、地域ごとの特色がよりはっきりしてくるだろう。
- 地域づくりは難しいが、スポーツ・芸術や子供（学校・PTA含む）などを通じた自然なコミュニティ形成が進めばいいと思う。
- 集落単位でのコミュニティ形成、自治が重要になってくる。
- 「何ができるか」を探して何もしないのではなく、「何をするか」を考え、作り出すべき。
- やろうという強い意志と、市全体が一丸となり、思い切った行動をとれば、できることは多い。
- 合理化や財政問題よりも「地域活性化のための合併」という位置づけをくれぐれも大切にしてほしい。
- 合併に対するアレルギーは必ずあるが、十分に話し合っ、活性化の契機となる合併になってほしい。
- 合併は現状の停滞を打破する最大のチャンスである。
- ロマンがある合併を望みたい。

4. 地域出身域外在住者聞き取り内容（将来構想に関連する部分のみ。要旨記述）

氏名	現状認識・評価・地域資源評価	今後への期待・要望・懸念	合併に関する要望・意見、その他
石積 忠夫	<p>長岡市は高校卒業以来、それほど深い付き合いではなかったが、最近、また縁が深くなってきている</p> <p>信濃川や雪・緑・悠久山などに思いをはせることが多い</p> <p>大手通の人通りの少なさなど経済的基盤の衰えが気になる</p> <p>雪(ウィンタースポーツ)や温泉の観光価値などをもっと高めるべき</p>	<p>コンベンション・エグジビション都市として、また、それをキーとする活性化の可能性は十分にある</p> <p>16,000 m²以上のコンベンション施設等インフラ整備と、行政・住民が一体となった取り組みが重要(民宿の活用、花火等の祭との連動 etc.)</p> <p>集中した取り組みとユーティリティ重視の運用を継続と繰り返しが成功を導く</p> <p>人と人が会い、時間を共有することの価値は大きい</p>	<p>「何ができるか」を探して何もしないのではなく、「何をするか」を考え、作り出すべき</p> <p>やろうという強い意志と、市全体が一丸となり、思い切った行動をとれば、できることは多い</p>
林家こん平	<p>新潟県人は日本一郷土愛が強い(日本一の県人会)。その中でも「小国会」は最も活発?</p> <p>地域出身者にはそのよさが見えてくる。だから出身者が誇りを持てる地域であることは重要</p> <p>新潟の食文化は自慢である(米・酒・のっぺ・他)</p> <p>いいものはたくさんあるのだから、もっと地域の文化や自然、生活を自慢してもいいはずだ</p>	<p>それぞれの地域らしさ・地域の良さを活かした活性化を図るべき</p> <p>地域の文化を掘り起こして、共有し、それをコミュニティ形成や活性化の材料にする仕掛けを</p> <p>地域それぞれの文化を結びつけて、より大きな価値を持たせる(大きなイベント+それぞれの祭り等)</p> <p>市全体のバックアップと同時に、地域の人々自身が参加・行動することが大切</p>	<p>合理化や財政問題よりも「地域活性化のための合併」という位置づけをくれぐれも大切にほしい</p> <p>合併に対するアレルギーは必ずあるが、十分に話し合って、活性化の契機となる合併になってほしい</p>
西澤 輝泰	<p>長岡地域は製造業を中心とした産業がある(現状はあまり良くないが、今後も中心となる)</p> <p>教育や人材育成に優れている地域である</p> <p>「学校の森」の保存・活用、自然保護・感受性教育の先進的取り組みもある</p>	<p>製造業の振興に向けた総合的な取り組みが重要</p> <p>知識・技術の集中と産学共働による製品開発</p> <p>オリジナリティ・創造性のある人間教育</p> <p>地域コミュニティ構築のためにも「拠点」をしっかり整備する必要がある(集落・商店街・センター)</p> <p>検討すべき施策例</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業 = 農産品の産直販売へのとりくみ 環境 = ごみの有料化 少子化 = 保育・育児の制度的支援 交通 = 公共交通網の整備 	<p>合併は現状の停滞を打破するチャンスである</p> <p>県内での新潟一極集中は良くない。対抗都市としての新市の活性化は県全体にとっても重要</p>

氏名	現状認識・評価・地域資源評価	今後への期待・要望・懸念	合併に関する要望・意見、その他
田中 トシオ	<p>(国際的な活動をしつつ)山古志の自然や生活は心のアイデンティティとして、常に意識している (雪解けの時期・山菜・新芽・食品・水棲動物・他)</p> <p>山古志には多様な観光資源となりうるものがある 棚田・鬼の穴伝説・山菜・みずな・水棲動物 etc. 芝桜・かたくりの群生など素朴な花 山古志の特徴的食食物(とうがん・なんばん、など)</p>	<p>山古志の文化と自然の価値を尊重しつつ、多様な資源を活用する観光産業開発へ (村内外の老若男女が参加・交流する体験農場等)</p> <p>産業化のアイデア 独自の植生を活用した食品・農産加工開発 水棲動物の養殖販売(教材などに)</p> <p>「山古志」の名前を活かしたブランドの確立</p>	<p>合併によって伝統ある地名を消滅しないようにしてほしい</p> <p>単なる周辺部として、だんだん人が少なくなる事態を恐れている</p> <p>離村者ではあるが、できることは貢献したい</p>

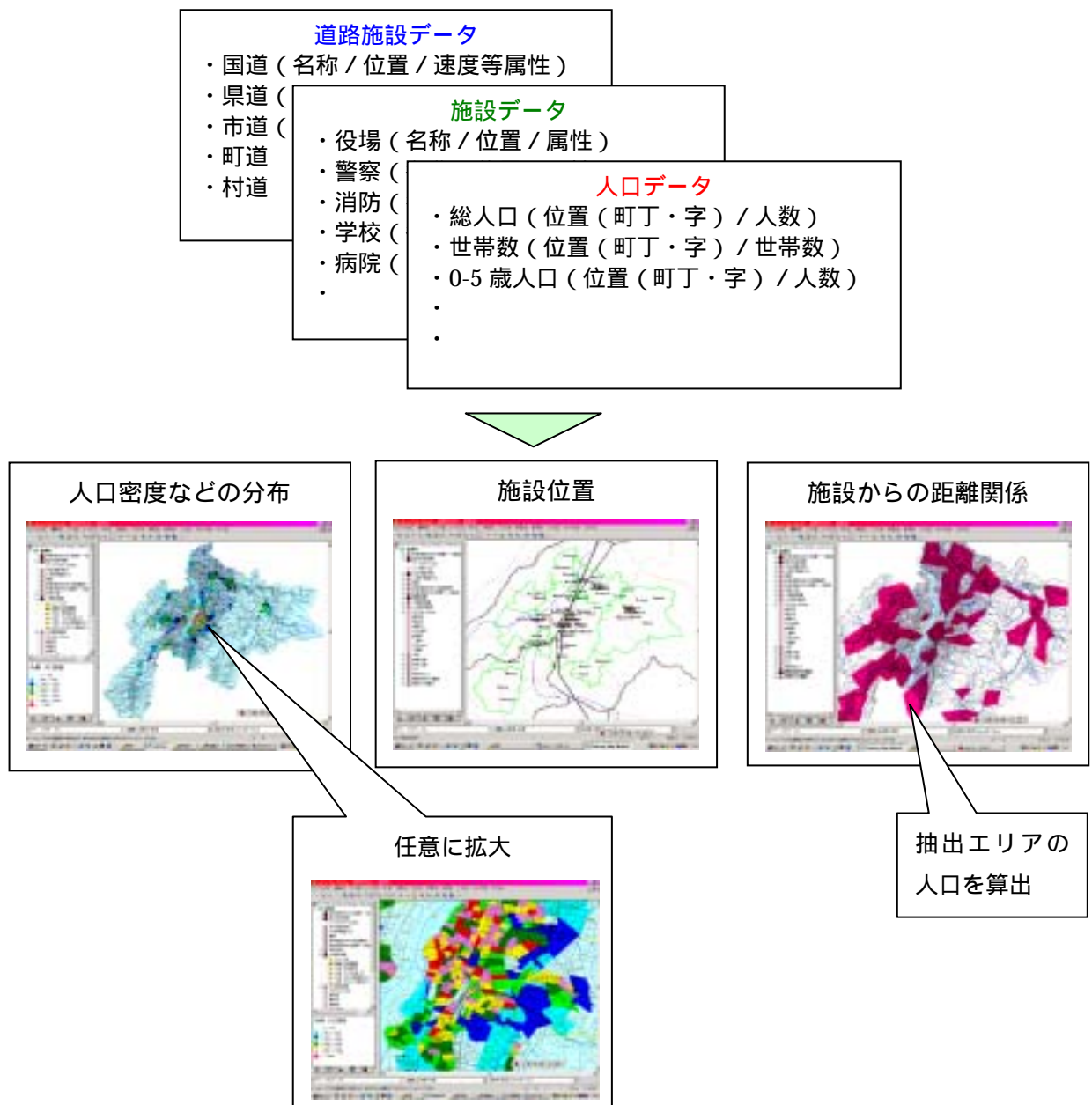
4 デジタルマップについて

1. デジタルマップ作成の目的

市町村合併に関する検討資料は、見た目のわかりやすさや説得力のある分析が必要です。特に住民のみなさまに向けた説明などの観点からも、これらの要素は重要です。

そこで、各種の情報を地図上で表す**デジタルマップ**により、効率的にこれらの資料を作成いたします。

2. デジタルマップのシステムイメージ



5 自治体ワークショップの開催について

1. 自治体ワークショップ開催の背景

- 新市将来構想は、地域のより多くの方たちの参加が不可欠である。
- すでにアンケート調査、住民ワークショップ・有識者ヒアリングが行われ、地域住民の意向・新市のイメージが素材として揃っている。
- 地域特性や資源を大切にしながら、新市のまちづくりについての検討が急務である。
- 新市将来構想は、より実現性を伴うものとして、地域住民に示していく必要がある。

2. 目的

- 構成8市町村が協力し合って新市将来構想を検討することで、説得力のある、地域が納得できる構想づくりを目指す。
- 地域住民の総意・新市のイメージや有識者の意見を踏まえ、地域づくりの行政担当者が構想実現の手法を考える。
- 新市の将来像を実現するための方策を導きだし、新市将来構想策定小委員会で検討していただく。

3. ワークショップのテーマ

地域特性・資源・素材の抽出
地域別整備方針づくり
方針実現に向けての活動展開の検討

4. 参加者等

- 参加者 = 構成市町村職員（各市町村 3名）……計24名
- ファシリテーター：小疇弘一氏
- 運営主体 = 任意合併協議会事務局及び委託コンサルタント